

令和5年度

第3期教育振興基本計画の進行  
管理及び点検・評価報告書

(令和4年度実施分)

八代市教育委員会

## は じ め に

教育委員会は、首長から独立した合議制の組織であり、同委員会が自ら立てた教育行政の基本方針に基づき、教育に係る広範かつ専門的な事務が確実に実施されることが求められています。

また、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理執行状況について、自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表すること、また、その点検・評価に当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとしてされています。

そこで、八代市教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するため、第3期教育振興基本計画の基本方針毎に進捗状況について点検・評価を実施し、報告書にまとめました。

報告書の作成に当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしており、3名の外部評価委員の方からの意見をいただいております。

本報告書により、令和4年度の教育委員会の活動を振り返り、市総合計画の基本目標の一つである「郷土を担い学びあう人を育むまち」及び八代市教育振興基本計画の基本理念である「やつしろの絆でつむぐ心豊かな人づくり」の実現に向けた事務事業の進捗状況等を点検・評価し、課題や問題点を見つめ直して効果的な教育行政の推進に努めるとともに、その結果を公表して市民への説明責任を果たしたいと考えています。

令和5年11月

八代市教育委員会

〈参考〉 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 目次

1. 教育委員会の運営状況		
(1) 教育委員会の概要	.....	1
① 教育委員会の目的	.....	1
② 教育委員会制度の仕組み	.....	1
③ 八代市教育委員会教育長及び委員	.....	1
(2) 教育委員会の主な活動内容	.....	2
① 教育委員会会議	.....	2
② 教育委員の会議・研修等への参加状況	.....	5
2. 教育委員会事務局の組織と担当業務		
(1) 事務局組織図	.....	6
(2) 事務局及び教育機関担当業務	.....	7
3. 令和5年度（令和4年度分）教育行政事務の管理執行状況の点検・評価について		
(1) 点検・評価の実施方法	.....	8
(2) 点検・評価の対象	.....	8
(3) 点検・評価に当たっての知見の活用	.....	8
4. 点検・評価票		
(1) 一覧表	.....	12
(2) 個別票	.....	13

## 1. 教育委員会の運営状況

### (1) 教育委員会の概要

#### ① 教育委員会の目的

教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興を図るため、広く地域住民の意向を反映した責任ある教育行政を実現します。

(地方自治法第180条の8)

教育委員会は、別に法律の定めるところにより、学校その他の教育機関を管理し、学校の組織編制、教育課程、教科書その他の教材の取扱い及び教育職員の身分取扱いに関する事務を行い、並びに社会教育その他教育、学術及び文化に関する事務を管理し及びこれを執行する。

#### ② 教育委員会制度の仕組み

- ・教育委員会は、地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として、全ての都道府県及び市町村等に設置（地教行法第2条）
- ・首長から独立した行政委員会としての位置付け（地方自治法第180条の8）
- ・教育委員会は、教育行政における重要事項や基本方針を決定する。（地教行法第21条）
- ・教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表する。（地教行法第13条）
- ・教育長は、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命。任期は3年で、再任可（地教行法第4条及び第5条）
- ・教育委員は、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命。任期は4年で、再任可（地教行法第4条及び第5条）

#### ③ 八代市教育委員会 教育長及び教育委員

(令和5年4月1日現在)

教育長：1人

(任期3年)

役職名	氏名	任期
教育長	北岡 博	令和3年4月1日 ～ 令和6年3月31日

教育委員：4人

(任期4年)

役職名	氏名	任期
委員 (教育長職務代理者)	渡邊 裕一	令和3年11月2日 ～ 令和7年11月1日
委員	奥村 留美子	令和元年10月1日 ～ 令和5年9月30日
委員	早田 蛍	令和3年11月2日 ～ 令和7年11月1日
委員	澤村 互寛	令和4年10月6日 ～ 令和8年10月5日

(2) 教育委員会の主な活動内容

① 教育委員会会議

教育委員会の会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「八代市教育委員会会議規則」の規定に基づき開催しました。

<教育委員会会議の開催状況>

令和4年度実績

定例会	12回	(令和3年度 12回)
臨時会	2回	(令和3年度 2回)
委員協議会	12回	(令和3年度 12回)

<定例会・臨時会における議案等の審議内容>

◇議案案件	22件	(令和3年度 37件)
・基本方針、計画の策定	0件	(令和3年度 4件)
・条例案、規則、規定の制定、改廃	12件	(令和3年度 15件)
・協議会、審議会委員の任命、委嘱	7件	(令和3年度 15件)
・職員の人事	1件	(令和3年度 1件)
・教科書の採択	0件	(令和3年度 0件)
・その他(点検・評価報告を含む)	2件	(令和3年度 2件)
◇協議案件	3件	(令和3年度 6件)
◇報告案件	21件	(令和3年度 32件)

◆議案案件事項一覧(22件)

※議案番号は、暦年で付しています。

開催日	議案番号	議 事 案 件 等
4月定例会 (4月26日)	19	八代市いじめ防止等対策委員会委員の委嘱について
	20	八代市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について
5月定例会 (5月20日)	21	八代市心身障害児童生徒就学指導委員会委員の委嘱について
	22	八代市奨学生選考委員会委員の委嘱について
7月定例会 (7月20日)	23	八代市立博物館未来の森ミュージアム協議会委員の任命について
	24	八代市社会教育委員の委嘱について
9月定例会 (9月8日)	25	八代市立図書館協議会委員の任命について
	26	八代市立学校等公印規程の一部改正について
10月定例会 (10月26日)	27	八代市立博物館未来の森ミュージアム条例の一部改正について
	28	八代市教育委員会事務局職員の職の設置に関する規則の一部改正について
11月定例会 (11月21日)	29	令和4年度教育に関する事務執行状況の点検・評価報告書について

開催日	議案番号	議 事 案 件 等
12 月定例会 (12 月 23 日)	30	八代市適応指導教室設置要綱の一部改正について
	31	八代市教育委員会会計年度任用職員任用規程の一部改正について
	32	八代市指定有形文化財の指定について
1 月定例会 (1 月 26 日)	1	八代市立学校等における独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金の徴収に関する規則の一部改正について
	2	八代市教育委員会文書規程の一部改正について
2 月定例会 (2 月 20 日)	3	八代市スクールバス運行管理要綱及び八代市立小・中学校遠距離通学費補助事業実施要綱の一部改正について
	4	熊本県八代市立学校管理規則の一部改正について
2 月臨時会 (2 月 24 日・27 日)	5	県費負担教職員の人事異動について
3 月定例会 (3 月 27 日)	6	八代市地域学校協働本部設置要綱の一部改正について
	7	八代市教育委員会事務局職員の職の設置に関する規則及び八代市教育委員会組織規則の一部改正について
	8	八代市立学校体育館施設条例施行規則等の一部改正について

◆協議案件一覧（3 件）

開催日	議案番号	議 事 案 件 等
7 月定例会 (7 月 20 日)	1	教育に関する事務執行状況の点検・評価の実施について
8 月定例会 (8 月 22 日)	2	教育に関する事務執行状況の点検・評価について
12 月定例会 (12 月 23 日)	3	令和 5 年度からの教育振興基本計画の進行管理と教育に関する事務執行状況調査の点検・評価の見直しについて

◆報告案件一覧（21 件）

開催日	議案番号	議 事 案 件 等
4 月定例会 (4 月 26 日)	9	令和 4 年度教育部組織目標について
	10	臨時代理報告・八代市教育委員会職員の人事異動について
6 月定例会 (6 月 20 日)	11	「八代市立学校における不登校児童生徒の『指導要録上の出席扱い』に係るガイドライン」の策定について
	12	第 2 期八代市教育振興基本計画の進行管理について
7 月定例会 (7 月 20 日)	13	八代市議会令和 4 年 6 月定例会について
	14	令和 4 年度 6 月補正予算の概要について
	15	公益財団法人八代市学校給食会経営状況報告について

開催日	議案番号	議 事 案 件 等
8月定例会 (8月22日)	16	令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について
10月定例会 (10月26日)	17	八代市議会令和4年9月定例会について
	18	令和4年度9月補正予算の概要について
11月定例会 (11月21日)	19	令和3年度決算審査における質疑・要望等の概要について
	20	令和3年度八代市学校・子ども教育応援基金事業の取組状況について
12月定例会 (12月23日)	21	八代市議会令和4年12月定例会について
	22	令和4年度12月補正予算の概要について
1月定例会 (1月26日)	1	令和4年度第3回八代市総合教育会議の協議案件について
	2	職務代理報告・八代市教育委員会職員の社会教育主事発令について
	3	八代市学校給食施設基本計画について
2月定例会 (2月20日)	4	学校プール再編に向けた取組みについて
	5	令和4年度の熊本県学力・学習状況調査及び八代市学力・学習状況調査の結果について
3月定例会 (3月27日)	6	八代市議会令和5年3月定例会について
	7	令和4年度3月補正予算及び令和5年度当初予算の概要について

## ② 教育委員の会議・研修等への参加状況

＜会議・研修会等への参加状況＞

(※教育委員会の定例会・臨時会・委員協議会及び主催者・来賓等で出席した会議、会合等を除く。)

◇学校訪問	16回
◇式典	3回
◇研修会等	1回

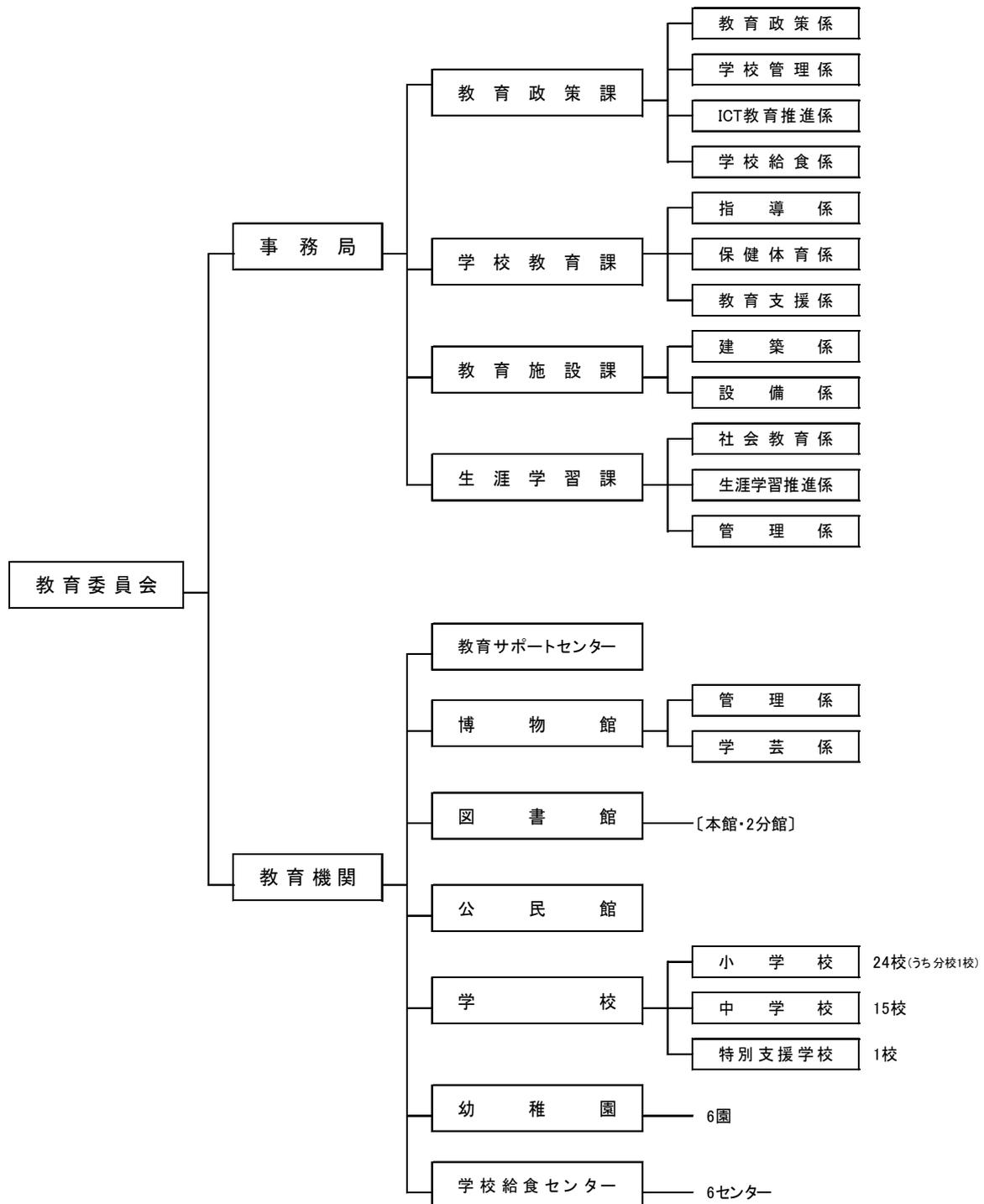
### ◆令和4年度に出席した会議・研修等の参加状況

年	月	日	曜日	活動内容	種別	開催場所
4	5	30	月	学校訪問	学校訪問	第五中
4	6	1	水	学校訪問	学校訪問	第六中
4	6	3	金	学校訪問	学校訪問	第四中
4	6	29	水	学校訪問	学校訪問	有佐小
4	7	6	水	学校訪問	学校訪問	千丁中
4	7	8	金	学校訪問	学校訪問	高田小
4	9	21	水	学校訪問	学校訪問	八竜小
4	9	27	火	学校訪問	学校訪問	鏡小
4	9	30	金	学校訪問	学校訪問	第一中
4	10	3	月	学校訪問	学校訪問	日奈久小
4	10	17	月	学校訪問	学校訪問	松高幼稚園
4	10	28	金	学校訪問	学校訪問	八代小
4	11	1	火	学校訪問	学校訪問	文政小
4	11	14	月	学校訪問	学校訪問	金剛小弥次分校
4	11	16	水	学校訪問	学校訪問	金剛小
4	11	30	水	学校訪問	学校訪問	第二中
5	2	8	水	熊本県市町村教育委員大会	会議	ホテル熊本テルサ
5	3	3	金	中学校卒業式	式典	各中学校
5	3	22	水	幼稚園卒園式	式典	各幼稚園
5	3	23	木	小学校卒業式	式典	各小学校

## 2. 教育委員会事務局の組織と担当業務

### (1) 事務局組織図

(令和5年4月1日現在)



## (2) 事務局及び教育機関担当業務

担当課	主な業務
教育政策課	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育委員会の会議</li> <li>(2) 総合教育会議に係る事務の補助執行</li> <li>(3) 事務局及び教育機関の政策調整業務</li> <li>(4) 教育に係る施策の総合的企画、調査研究及び総合調整</li> <li>(5) 条例、規則、規程等</li> <li>(6) 公示及び令達</li> <li>(7) 公印の管守</li> <li>(8) 請願及び陳情の連絡調整</li> <li>(9) 教育の振興に係る基本計画及び教育に係る重要施策の進行管理</li> <li>(10) 教育委員会に係る事務の管理及び執行の状況の点検及び評価並びにその公表</li> <li>(11) 教育委員会の組織機構及び職員配置</li> <li>(12) 市費職員の人事(幼稚園教員の人事を除く。)、給与、服務、研修及び福利厚生</li> <li>(13) 奨学資金貸付金</li> <li>(14) 学校及び幼稚園予算の配当手続及び出納</li> <li>(15) 学校の用に供する物品の調達、管理及び処分</li> <li>(16) 学校施設の使用</li> <li>(17) スクールバスその他の通学手段</li> <li>(18) ICT教育の推進及びICT環境整備に関すること。</li> <li>(19) 学校及び幼稚園の給食運営に関すること。</li> <li>(20) 学校給食センターの運営に関すること。</li> <li>(21) 学校給食に従事する職員の研修に関すること。</li> <li>(22) 学校及び学校給食センターの給食設備に関すること。</li> <li>(23) 公益財団法人学校給食会に関すること。</li> </ul>
学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校及び幼稚園の管理運営、教育課程及び教育指導</li> <li>(2) 学校及び幼稚園の学級編制並びに教職員人事</li> <li>(3) 園児、児童及び生徒の就園、就学及び転出入</li> <li>(4) 就学援助及び特別支援教育の就学奨励</li> <li>(5) 教科用図書その他教材の取扱い</li> <li>(6) 学校及び幼稚園の教職員の服務及び研修</li> <li>(7) 学校人権教育</li> <li>(8) 教育サポートセンターとの連携</li> <li>(9) 園児、児童、生徒及び教職員の保健及び安全</li> <li>(10) 日本スポーツ振興センター</li> <li>(11) 学校医、学校歯科医及び学校薬剤師</li> </ul>
教育施設課	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校及び幼稚園の設置、保全管理及び廃止</li> <li>(2) 学校及び幼稚園の計画及び申請</li> <li>(3) 教育財産の取得及び処分の手続</li> <li>(4) 教育関係土地建物の貸借契約</li> <li>(5) 教育施設の工事の設計、施工及び監督</li> </ul>
生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会教育に係る総合的計画及び資料収集</li> <li>(2) 社会教育委員会</li> <li>(3) 社会教育施設の設置及び廃止</li> <li>(4) 社会教育団体</li> <li>(5) 各種社会教育学級の開設及び講座、講演等</li> <li>(6) 青少年及び成人教育</li> <li>(7) 生涯学習推進体制の整備</li> <li>(8) 公民館事業の企画及び運営</li> <li>(9) 公民館の維持管理</li> <li>(10) 社会人権同和教育</li> <li>(11) 人権政策課及び学校人権教育との連携及び相互協力</li> <li>(12) 図書館</li> <li>(13) 博物館との連絡調整</li> <li>(14) 文化に関する事務の市長部局との連絡調整及び文化財保護</li> <li>(15) スポーツに関する事務の市長部局との連絡調整</li> </ul>
教育サポートセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育に係る専門的及び技術的事項の調査研究</li> <li>(2) 教育関係の図書及び資料の収集及び活用</li> <li>(3) 教育関係職員の研修</li> <li>(4) 教育に係る相談</li> <li>(5) その他教育委員会が必要と認める事業</li> <li>(6) 教育支援センターの運営</li> </ul>
博物館	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 博物館運営上の企画及び立案</li> <li>(2) 博物館施設等の維持管理及び利用許可</li> <li>(3) 観覧料及び使用料</li> <li>(4) 博物館資料の収集、保管及び展示並びに調査研究</li> <li>(5) 博物館資料の特別利用及び館外貸出し</li> <li>(6) 博物館資料に係る説明並びに目録、報告書等の作成及び配布</li> <li>(7) 展覧会、講演会、講習会、研究会等の開催</li> <li>(8) 博物館事業の普及及び広報</li> <li>(9) 他の博物館、図書館、公民館、学校その他関係機関との協力及び活動の援助</li> </ul>

### 3. 令和5年度（令4年度分）教育行政事務の管理執行状況の点検・評価について

#### （1）点検・評価の実施方法

昨年度（令和3年度分）までは、個々の予算単位である事務事業毎に点検・評価を実施してきましたが、令和4年度からの「第3期八代市教育振興基本計画（計画期間R4～R7）」（以下「基本計画」）のスタートを機に実施方法の見直しを行い、本年度（令和4年度分）からは、基本計画の骨組（基本方針）毎に点検・評価を実施し、本市教育行政の着実な推進を目指します。

#### （2）点検・評価の対象

基本計画に掲げる全ての基本方針（全18）及び主な施策（全60）（令和4年度分）を対象とし、基本方針毎に基本計画に記載する成果指標の実績値と進捗状況、主な施策にかかる取組の成果状況を明らかにするとともに、課題等を分析し、今後の方向性を示しました。

<評価基準>

区分	進捗の度合	判断の基準
S	予定をはるかに上回る進捗だった。	取組により見込みをはるかに上回る効果が得られた。 組織の期待や要求を大きく上回っている。 目標より極めて早く進んでいる。
A	予定を上回る進捗だった。	取組により見込みを上回る効果が得られた。 組織の期待や要求を上回っている。 目標より早く進んでいる。
B	概ね順調である。	取組による効果は見込みどおりだった。 組織の期待や要求どおりに進んでいる。 目標どおりに進んでいる。
C	あまり順調でない。	取組方法等に見直しが必要。 組織の期待や要求を下回っている。 目標から遅れている。

#### （3）点検・評価に当たっての知見の活用

点検・評価に当たっては、教育委員会が実施した点検・評価について、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、3名の外部評価委員から意見等を聴取します。

なお、外部評価に当たっては、毎年度の評価対象を6基本方針とし、3年間で一巡するものとします。評価最終年度は、外部評価委員の意向を踏まえ再度選定します。

○八代市教育委員会外部評価委員

坂本 哲朗 氏	中九州短期大学学長
三栗野 恵美子 氏	八代市地域婦人会連絡協議会会長
松本 啓佑 氏	八代市PTA連絡協議会会長

○基本方針ごとの外部評価年度

年 度	外部評価対象の基本方針					
令和5年度	基本方針1	基本方針4	基本方針7	基本方針10	基本方針13	基本方針16
令和6年度	基本方針2	基本方針5	基本方針8	基本方針11	基本方針14	基本方針17
令和7年度	基本方針3	基本方針6	基本方針9	基本方針12	基本方針15	基本方針18
令和8年度	外部評価委員の意向を踏まえ選定					

○外部評価委員の意見等

令和5年度は、外部評価委員会を9月及び10月に計2回開催し、基本計画に掲げる基本方針（全18）及び主な施策（全60）のうち下記の6基本方針について、外部評価委員より意見等をいただきました。

基本方針	関係課かい
1 幼児教育の充実	学校教育課・教育政策課
4 健やかな体の育成	学校教育課・教育政策課
7 教職員の資質・指導力の向上	学校教育課・教育サポートセンター
10 学校・家庭・地域の連携・協働	学校教育課・生涯学習課
13 生涯学習を通じた学習活動の推進	生涯学習課
16 社会教育施設の整備	生涯学習課・博物館

以下、その内容について基本方針毎に記載しています。

◆基本方針1. 幼児教育の充実では、子どもたちが「生きる力」の基礎を身に付け、たくましく心豊かに育つために、幼児期の終わりまでに目指す子どもの姿を明確にし、幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、中学校の連携を深め、交流を通しながら健やかに育つ環境づくりを目指します。

委員からは、「育ってほしい10の姿」について、遊びや生活の中で活発に取り組まれていることは素晴らしいと思う、今後も幼・保・小連携の機会を捉えて推進されることを期待するという意見や、園児数減少のなか、魅力ある幼稚園づくりの発信、子育ての普遍性の更なる発進に期待するとの意見がありました。

◆基本方針4. 健やかな体の育成では、子どもたちが、生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、健康・安全で活力ある生活を送ることができるよう、体力・運動能力の向上や食習慣を始めとする生活習慣の改善、関係機関との連携による健康教育を推進します。

委員からは、厳しい社会情勢の中でも、体力・健康の改善傾向はありがたく思う、体力・健康力の増強には、外遊びの楽しさ体験の推進や部活動改革の1つのポイントとしての大人の指導力・指導環境の整備工夫が必要だと言う意見や、猛暑の中、屋外で遊べない子どもたちの体力を維持する上で、学校体育館のエアコン設置は必要と考える、地域住民も利用できる設備であるとありがたいとの意見がありました。また、部活動改革については、あまり進展していないと感じる、保護者や子どもたちがその内容を認識できていない部分が多く、不安に思っているため、部活動をしないことを選択する子どもたちが増えてきており、そのことが体力低下にも繋がっていると思うので早くその不安を解消してほしいとの意見がありました。

◆基本方針7. 教職員の資質・指導力の向上では、子どもたちと向き合う時間の確保に努めるとともに、子どもたちの「生きる力」を育むために、管理職のリーダーシップの下、組織力の向上を図り、研修の充実などにより教職員の資質・指導力の向上を図ります。

委員からは、教職員の皆さんが元気に笑顔で心に余裕を持って学習者である子どもたちに接することが出来る方向にあることは、若干ではあるが改善の傾向にあると思うが、更なる人員・人材の確保が必要であるという意見や、教職員の働き方改革が進み、余裕を持った指導がなされるよう願っているとの意見がありました。

◆基本方針10. 学校・家庭・地域の連携・協働では、学校・家庭・地域、各種団体などが連携し、情報交換や相談体制の整備を進めるとともに、本の読み聞かせ活動や登下校の見守りなど、地域における子どもの安全・安心な居場所づくりに努め、地域社会全体で子どもたちを守り育てる環境を整えていきます。

委員からは、地域学校協働活動カバー率が令和4年度に100%に達していることは、いかに急速に趣旨の徹底や計画立案、実践化がなされたか、目を見張るものがある、今後は連携・協働の内容の充実ということになると思うので、地域の皆さんと夢を語り合い、各校区、学校の特色ある活動がなされることに大いに期待するという意見や、人材ボランティア登録者数が増えるよう願っているとの意見がありました。

◆基本方針13. 生涯を通じた学習活動の推進では、八代市公民館、図書館、博物館、学校など施設間の連携を図り、時代の変化や市民のニーズに沿った多様な学習機会、学習情報の提供を行い、その学習活動を通じて、住民主体の地域活動や新たな学習の促進を図ります。

委員からは、コロナ禍による外出不安や密集不安は現在もあるため、価値のある活動を企画実践しても思うように人が集まらない現状にあるが、このような不安はあっても着々と次の事に着手されているのはありがたい、学び直しのリカレント教育については、公的・

私的に今後の充実が望まれるとの意見がありました。また、アウトドア活動については、他県で滑り台で子どもが怪我をするという事故が起こっており、本市においてもアウトドアスクールを開催されているが、いつ、どこで、何が起こるか分からない、アウトドア活動に限らず、重大な事故等が起こらないよう細心の注意を払いながら子どもたちを見守ることは、本当に大変な仕事だと思うのでこれからも頑張っていたきたいとの意見がありました。

◆基本方針16. 社会教育施設の整備では、公民館を始め図書館、博物館などの社会教育施設については、市民の生涯学習の拠点として、計画的な整備、改修などの環境整備を進めることが必要です。また、廃校した学校施設を利用している社会教育センターについても、公民館、図書館、博物館とあわせて、八代市公共施設等総合管理計画により、適正な維持管理を図ります。

委員からは、図書館のレファレンスサービスやI Cタグ管理システムについては、図書館利用者として感動したという意見や、お宝満載の博物館が計画的に保存管理を進められていることをありがたく思う、改修工事後に市民が、新しくなった博物館にまた行ってみたいと思えるような休館中の取組を期待するとの意見がありました。

4. 点検・評価票

(1) 一覧表

総合計画		教育振興基本計画		関係課かい
基本目標	施策の大綱	具体的な施策	基本目標	
<p>郷土を担い学びあう人を育むまち</p> <p>安全・安心・快適に暮らせるまち</p>	<p>「生きる力」を身につけた未来を担うひとづくり</p> <p>誰もが学べる生涯学習のまちづくり</p> <p>郷土の文化・伝統に親しむまちづくり</p> <p>災害に強く安全・安心なまちづくり</p>	<p>学校教育の充実</p> <p>学校・家庭・地域の協働</p> <p>生涯学習し施設と連携した生涯学習推進体制の整備</p> <p>社会教育施設施設の整備・充実</p> <p>文化施設の整備・充実</p> <p>歴史文化遺産の保存・活用</p> <p>防災・減災対策に資する強靱化の推進</p>	基本方針（点検・評価表）	関係課かい
			(1) 幼児教育の充実	学校教育課 教育政策課
			(2) 確かな学力の育成	学校教育課 教育政策課
			(3) 豊かな心の育成	学校教育課 教育サポートセンター
			(4) 健やかな体の育成	学校教育課 教育政策課
			(5) 特別支援教育の推進	学校教育課 教育サポートセンター
			(6) 9年間を見通した「八代型小・中一貫・連携教育」の推進	学校教育課
			(7) 教職員の資質・指導力の向上	学校教育課 教育サポートセンター
			(8) 学びを支える教育環境の整備	学校教育課 教育政策課
			(9) 安全・安心な学校づくりの推進	学校教育課・教育施設課 教育施設課
			(10) 学校・家庭・地域の連携・協働	学校教育課 生涯学習課
			(11) 家庭における教育力の向上	生涯学習課 教育サポートセンター
			(12) 地域における教育力の向上	生涯学習課
			(13) 生涯を通じた学習活動の推進	生涯学習課
			(14) 人を育む図書館づくりの推進	生涯学習課
			(15) 文化の継承と創造に貢献する博物館づくり	博物館
			(16) 社会教育施設の整備	生涯学習課 博物館
			(17) 歴史文化遺産の保存継承と活用	文化振興課
(18) 災害からの復興推進・教訓の継承	教育政策課・学校教育課 教育施設課・生涯学習課 教育サポートセンター 博物館・文化振興課			

## (2) 個別票

### 令和5年度 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表

1	幼児教育の充実	.....	P. 14
2	確かな学力の育成	.....	P. 16
3	豊かな心の育成	.....	P. 18
4	健やかな体の育成	.....	P. 21
5	特別支援教育の推進	.....	P. 24
6	9年間を見通した「八代型小中一貫・連携教育」の推進	.....	P. 27
7	教職員の資質・指導力の向上	.....	P. 29
8	学びを支える教育環境の整備	.....	P. 32
9	安全・安心な学校づくりの推進	.....	P. 36
10	学校・家庭・地域の連携・協働	.....	P. 39
11	家庭における教育力の向上	.....	P. 42
12	地域における教育力の向上	.....	P. 44
13	生涯を通じた学習活動の推進	.....	P. 46
14	人を育む図書館づくりの推進	.....	P. 49
15	文化の継承と創造に貢献する博物館づくり	.....	P. 52
16	社会教育施設の整備	.....	P. 56
17	歴史文化遺産の保存継承と活用	.....	P. 59
18	災害からの復興推進・教訓の継承	.....	P. 62

# 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 1 子どもたち一人一人の「生きる力」を育みます

## 基本方針

### (1) 幼児教育の充実

#### 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
研究テーマを設定し、計画的に園内研修を実施し、教育・保育内容の工夫改善に努めた幼稚園の割合 (%)	100	100	100				100 を維持	
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」やスタートカリキュラム等を小学校と共有した幼稚園の割合 (%)	—	50	50				100	

#### 2. 成果指標の進捗状況 ※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

・全ての市立幼稚園において、年度当初に作成した計画に基づき、園内研修を実施できた。各園でテーマを設定し、研究保育・保育研究会の実施や教育内容の検討等、教育・保育の充実のため工夫した取組がなされた。

・就学前の小学校との連絡会を実施しているが、引継ぎが主であり、小学校と合同で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等の共有する時間の確保が必要である。

#### 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策 (担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 「生きる力」の基礎を育む幼稚園教育の充実 (学校教育課)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生きる力」の基礎を育むために、資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を全職員で明確化し、一人一人の発達の特性に合った幼児教育を推進することができた。</li> <li>・遊びや生活の中で、子供が興味や関心をもつような環境づくりの充実に努めることができた。</li> </ul>
② 幼・保等、小、中連携の充実 (学校教育課)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八代型小中一貫・連携教育の一層の推進を目指し、各校区ごとに作成している連携カリキュラムを実施し、見直しを図りながら子供の発達段階に応じた指導支援の在り方について、共通理解を図った。</li> <li>・幼児教育と小学校教育との円滑な接続のために、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を柱に話し合いをするなど、計画的な時間の確保が必要である。</li> </ul>

#### 4. 今後の課題と方向性

①園児数の減少が大きな課題である。魅力ある幼稚園づくりと発信、関係機関との連携を更に進めていく必要がある。

②小学校には多様な幼児教育施設からの入学があるため、八代市全体の幼児教育の体制づくりを確立する必要がある。  
(①・②学校教育課)

## 5.学識経験者等の意見

- ・「育ってほしい10の姿」について、遊びや生活の中で活発に取り組まれていることは素晴らしいと思う。今後も幼・保・小連携の機会を捉えて推進されることを期待する。
- ・園児数減少のなか、魅力ある幼稚園づくりの発信、子育ての普遍性の更なる発進に期待する。

### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段:予算現額★ 下段:決算額	上段:当初予算 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額
①	学校教育課 教職員研修事 業(幼稚園)	県内で実施される各種人権教育協議会、研修会に教職員を派遣し、人権意識を高め、市全体の人権教育推進を図る。研究会等への教職員の派遣、園内研修派遣事業の活用等により「生きる力」の基礎を育む保育の充実を図る。	202	126	130	130
			11			
①	教育政策課 幼稚園管理運 営事業	幼稚園の管理運営に係る予算を適切に管理し、管理運営に必要な日常的、義務的経費の執行を行うことにより、教育環境の整備を行う。	24,959	24,888	24,800	24,800
			23,835			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

# 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 1 子どもたち一人一人の「生きる力」を育みます

基本方針
(2) 確かな学力の育成

## 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
熊本県学力・学習状況調査結果における標準スコア(上段:小、下段:中)(平均値=50)	50.0	50.7	50.3				52.5	
	48.1	48.8	48.6				51.0	
目標読書冊数を達成した児童生徒の割合(上段:小、下段:中)(%)	67.0	65	69.0				69.0	
	33.3	35	30.8				39.0	
中学3年における英検3級相当を取得した割合(%)	18	15	20				44	
キャリア・パスポート※を活用している学校の割合(%)	—	100	100				100 を維持	

※ キャリア・パスポート: 児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫された記録のこと。

## 2. 成果指標の進捗状況 ※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

<ul style="list-style-type: none"> <li>熊本県学力・学習状況調査結果における標準スコアについては、小中学校共に過年度の数値と比較すると、同程度であった。</li> <li>中学3年における英検3級相当を取得した割合については、令和4年度の県の目標値である36%を大きく下回る結果となった。</li> <li>学校図書館支援員による学校図書館整備、読書推進体制の構築が進み、小学校の目標読書冊数達成の割合が伸びている。</li> <li>キャリア・パスポートの活用は各小中学校において定着してきており、小中学校間での引継ぎも確実に進んでいる。</li> </ul>
--

## 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策(担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 「学力向上やつしるプラン」の推進(学校教育課)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学力向上やつしるプラン」等に基づき八代市立学校における授業改善を図るとともに、令和4年度から年度当初に八代市学力・学習状況調査を実施し、学力向上検証サイクルの確立に取り組んでいる。</li> <li>先述の取組により授業改善は進められてきているものの、児童生徒の確かな学力の育成に十分につながっていない。</li> </ul>
② 読書活動の推進(学校教育課)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館支援員と図書館教育主任及び司書教諭が連携することで、児童生徒の読書活動推進と学校図書館環境の整備、充実につながっている。</li> <li>中学校だけでなく、小学校においても、活字離れ・デジタル機器の活用の傾向が見られた。「ハッピーブック運動」を活用し、児童生徒が本に親しむ環境づくりの一層の充実が必要である。</li> </ul>

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
③ 英語教育の推進（学校教育課）	C	・令和4年度における英語検定等の外部試験を受験したことがある中学3年生の割合が、前年度と比較して10%以上減少したことが英検3級相当の取得率低下につながったと考える。 ・英語検定の検定料補助制度について、チラシ配布等により生徒・保護者への周知を図ったが、十分ではなかった。
④ キャリア教育の推進（学校教育課）	A	・各学校においてキャリアパスポートの活用を始めてから3年目となり、活用自体は定着してきている。今後は、児童生徒の自己理解やキャリア形成のために、いかに効果的に活用していくかが課題である。

#### 4.今後の課題と方向性

①確かな学力の育成を図るために、「学力向上やつしるプラン」等の見直しを行い、学力向上に向けた具体的な手立てについて再検討するなど、更なる取組の工夫改善を進める。
②「ハッピーブック運動」を活用し、児童生徒が本に親しむ環境づくりを更に進めていきたい。また、蔵書点検を計画的に実施し、図書の更新に努める。
③英語検定の受験率の向上のため、検定料の補助に関して、チラシ配布だけでなく八代市教育委員会から一斉送信する学校安心メールも活用し、保護者への更なる周知を図る。また、英検3級相当以上の力をもっていながら英検を受験したことがない生徒が10%程度いることから、各学校における当該生徒への個別の声かけも進めていきたい。
④管内キャリア教育研修会等を通して、各学校におけるキャリアパスポートの活用の好事例を共有し、より効果的な活用を推進していく。(①～④学校教育課)

#### 5.学識経験者等の意見

外部評価年度：令和6年度
--------------

#### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段:予算現額★ 下段:決算額	上段:当初予算 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額
②	教育政策課 図書購入事業 (小・中・支 援)	学校図書館の蔵書及びシステムを整備し、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童の読書活動を推進し、健全な教養を育成する環境を整備する。	16,568	17,406	17,400	17,400
			16,324			
③	学校教育課 語学指導外国 青年招致事業	英語を母国語とする外国青年を招致し、幼・小・中・特別支援学校に派遣し、英語教師と共同で授業を行うことにより、英語教育の改善充実及び国際交流の充実に資する。	60,542	62,901	60,000	63,000
			54,959			
③	学校教育課 学校教材充実 事業(中学校)	英語教育の充実は、本県の教育振興基本計画における重要政策の一つであり、かつ本課の重点事項である「確かな学力の育成」につながる重要な施策であるため、外部検定試験の受験料を補助することで生徒の英語力向上を図る。	1,520	1,259	1,830	1,830
			1,520			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

# 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 1 子どもたち一人一人の「生きる力」を育みます

基本方針
(3) 豊かな心の育成

## 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
全児童・生徒のうち新規不登校児童・生徒の占める割合 (%)	1.1	1.4	2.9				1.2	
いじめの解消した割合 (%)	95.7	99.5	77.5 (R5.3月時点)				100	

## 2. 成果指標の進捗状況 ※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

・新型コロナウイルスの影響等もあり、新規不登校児童生徒数が増加している。令和3年度9234人中376人、令和4年度9233人中510人であった。学校だけでは不登校児童生徒への対応が困難であるため、SC・SSW等の専門家や関係機関等との連携・協力を進めている。

・昨年度まで5月に実施されていた県の「いじめに関する追跡調査」が令和5年度は実施されていないため、最新のいじめ解消率が把握できていないが、令和4年度末時点の解消率は77.5%だった。

## 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策(担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 不登校問題に対応した支援の充実(学校教育課・教育サポートセンター)	B	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育課、教育サポートセンター、生涯学習課の3課で不登校対応について協議を行い、今後の方向性等について検討した。</li> <li>・各学校において、よりよい愛言葉 やつしろ「愛の1・2・3運動+1」の取組を行い、不登校未然防止につとめた。</li> <li>・コロナ禍以降、不登校児童数が大幅に増加しており、新たな不登校対策が必要となっている。</li> </ul>
	A	<p>【教育サポートセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「くま川教室」について、年間の利用申込者数は小学生が4人、中学生が30人であった。そのうち、在籍校へも登校できた児童生徒は小学生が4人、中学生が29人であった。在籍校へ登校できた児童生徒数が多かったことについては、利用児童生徒が、指導員による綿密な支援を通して、抱えているそれぞれの課題を少しずつ緩和させることができたことにあると考えられる。また、中学3年生に関しては、卒業後の進路に向けた支援もなされ、学校復帰のみならず、社会的自立に向けた支援も充実した。</li> <li>・令和4年11月、「くま川(不登校)相談室」を新設し、保護者の相談に対応している。</li> <li>・令和5年度から、名称を「適応指導教室くま川教室」から「教育支援センターくま川教室」へと変更し、新たな一歩を踏み出す。</li> <li>・子ども支援相談室への相談のうち、いじめに関する相談が20件、不登校に関する相談が230件あった。内容次第では、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育アドバイザー等にもつなげた。また、学校・園とも連携を図った。</li> <li>・不登校対応研修会を新規に実施し、教職員が不登校児童生徒への対応・支援について学ぶ機会を設けた。</li> <li>・不登校相談サポート事業を新規に立ち上げ、教育サポーター、特別支援教育アドバイザー、子ども支援相談員、それぞれの立場で、児童生徒、保護者、学校等のニーズに応えることができた。三職種で情報を共有し、連携し合い、よりよい支援を行うことができた。</li> </ul>

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
② 「いじめ問題」対応の強化（学校教育課）	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題対策連絡協議会、いじめ防止等対策委員会等の開催により、本市のいじめ等の現状について関係機関等と情報共有を行い、連携体制を強化した。</li> <li>・いじめの早期発見・解消のため、各学校において定期的なアンケート・教育相談を実施するよう呼びかけを行った。</li> <li>・SNS上でのトラブル・いじめなど教職員の目が届かないところでの問題にどう気付くかが課題である。</li> </ul>
③ 道徳教育・郷土学習の充実（学校教育課）	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土学習においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、外部との交流が制限される中、工夫した取組も行われた。</li> <li>・学校訪問等において、道徳の授業を参観、指導助言することで、子供の発達段階や特性等を踏まえた授業の充実につなげることができた。</li> </ul>
④ 人権同和教育の推進（学校教育課）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各研修会については、オンラインでの開催等、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施され、多くの教職員が参加し学びを深めることができた。</li> <li>・毎月11日の「人権を確かめあう日」には各学校で独自の取組が行われており、特に11月には「人権集会」など人権同和教育・啓発の取組を行った学校もあった。</li> <li>・「人権子ども集会・フェスティバルinやつしろ」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためオンデマンド開催。各学校で人権啓発動画やテーマソング合唱動画、人権メッセージを作成したものを配信することで啓発活動を行った。</li> </ul>
⑤ 環境教育の推進（学校教育課）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校5年生を対象とした水俣への現地訪問（「水俣に学ぶ肥後っ子教室」）を通して、学習した成果を整理、発信することで、意欲的に環境保全や環境問題の解決に取り組む態度を育成することができた。</li> <li>・各学校で「学校版環境ISO」の取組として、児童生徒が自ら考えて行動することで、環境保全への関心、意欲を高めることができた。</li> </ul>

#### 4.今後の課題と方向性

- ①学校教育課、教育サポートセンター、生涯学習課の3課で不登校対応について定期的に協議し、地域や関係機関等の協力を得ながら具体的な取組につなげていく。SC・SSW等の専門家・関係機関からの支援を受けている不登校児童生徒の割合を100%にするとともに、長期間欠席している児童生徒への学習機会の保障（ICT学習支援ツールを活用した学習）を推進していく。（学校教育課）
- ①「くま川教室」の今後の方向性としては、通級生の在籍校との連携・調整が不可欠であるため、今後も教育委員会（教育サポートセンター）で管轄し運営していく必要があると考える。また、児童生徒自身や家庭環境など個人情報を取り扱うため、民間委託等にそぐわないことから教育サポートセンターで管轄していく。さらに、学習、生徒指導、相談等多岐にわたる指導技能が求められるため、今後も豊かな教職経験をもつ退職された指導員10人で児童生徒に寄り添った指導を進めていく。改善点としては、今後も本市の不登校児童生徒数の増加に伴い通級者の増加が予想されるため、支援体制の再構成を検討していく。（教育サポートセンター）
- ②「熊本県公立学校心のアンケート」において「いじめられたことを誰かに話をした」と回答する児童生徒の割合（R4 小学校69.1%、中学校80.8%）が高まるように、各学校における定期的なアンケートと教育相談の実施を促すとともに、「24時間子供SOSダイヤル」など様々な相談窓口を児童生徒に周知する。（学校教育課）
- ③教育活動全体での道徳教育の充実を図るとともに、郷土を大切に作る心や態度を育み、新たな文化を創造していこうとする郷土学習を充実する。（学校教育課）
- ④コロナ禍でオンライン開催等での研修会や行事が、以前のように集合型での開催になると予想される。会場費や児童生徒の移動の際のバス代等支援を行っていく。（学校教育課）
- ⑤学習や委員会活動にとどまらず、環境保全に対する取組の日常化につながるような環境教育の推進を図る。（学校教育課）

## 5.学識経験者等の意見

外部評価年度：令和7年度

### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段：予算現額★ 下段：決算額	上段：当初予算 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額
①	教育サポートセンター 不登校児童生徒の教育支援事業	不登校児童生徒の集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等のための相談・指導（学習指導を含む。）を行うことにより、その社会的自立に資する。	11,798	12,191	13,262	13,498
			11,212			
②	教育サポートセンター 子ども支援相談事業	いじめ・不登校等をはじめとする教育的諸問題について、児童生徒・その保護者・教職員等に対し、相談員が支援・助言を行い、その解決を図る。	1,913	2,004	2,100	2,190
			1,878			
②	学校教育課 いじめ対策等推進事業	八代市いじめ問題対策連絡協議会における情報共有、広報・啓発活動、八代市学校支援委員会における専門的な立場からの指導助言、いじめ防止等対策委員会における調査研究及び有効な対策や重大事態の調査等を中心に、いじめの未然防止、早期発見・解決のための取組を充実させる。	3,833	3,486	3,450	3,450
			3,084			
④	学校教育課 人権教育事業	同和問題に関係する各団体へ負担金又は補助金を交付し、各団体が実施する研修会等の啓発活動の支援とともに、行政・団体・教育現場の人権教育における連携調整を図る。県内実施の各種人権教育協議会、研修会に教職員を派遣し、人権意識を高め、市全体の人権教育推進を図る。	1,804	1,692	1,650	1,650
			938			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

# 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 1 子どもたち一人一人の「生きる力」を育みます

基本方針
(4) 健やかな体の育成

## 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果における全国平均以上の種目数 (上段：小学5年生、下段：中学2年生)	10	—	10				16	
	7	—	10				16	

## 2. 成果指標の進捗状況 ※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査について、コロナ禍でR2年度は中止、R3年度も一部実施できない学校があった。また臨時休校等もあり、全国的に体力の低下傾向が見られる。</li> <li>・そういった状況の中、各学校で体力向上に関する工夫した取り組みも行われており、全国平均に届かなかった種目においても、平均値に近い結果を残しており、低下傾向に歯止めがかかっている状態である。</li> </ul>
--

## 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策(担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 体力の向上と健康の保持増進(学校教育課)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女各8種目、合計16種目中、小中学校ともに10種目が全国平均を上回った。上回らなかった種目も全国平均との差は大きくなく、取組の成果が表れてきている。</li> <li>・う歯保有者における未処置歯保有率において、令和2年度が小学校で29.6%、中学校で22.5%であり、令和4年度には小学校25.1%、中学校で19.7%と改善傾向にある。しかし、いずれも全国平均を7ポイント近く上回っている状況にあり、更なる取組の充実が求められる。</li> </ul>
② 適正で魅力ある部活動の充実(学校教育課)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公表がずれ込んでいた国のガイドラインが12月に公表され、熊本県の説明会も2月に開催された。令和3年度に立ち上げた「八代市中学校部活動改革検討委員会」については、10月と2月の2回、会を実施した。地域性や学校数等本市における課題に対して、今後更なる検討を重ねていく必要がある。</li> </ul>

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
	A	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育推進校については、毎年1校依頼をしている。令和4年度は八代小学校に依頼し、食育についての研究を進め、地域や関係機関と連携を行いながら、栽培活動や体験活動を授業の中で効果的に実施することができた。このことにより、収穫の喜びや食べ物への関心を高め、食生活の改善、さらには生きる力の育成の推進等大きな研究成果が得られた。</li> <li>・学校給食を通じた食育の推進等を目的に例年開催している八代市学校給食研究協議大会については、新型コロナウイルス感染症対策のためオンデマンド開催となったが、講師による食物アレルギー対応や前年度の食育推進校の実践、栄養教諭の取組等を各学校や各給食センター職員に広めることができた。</li> <li>・各学校では、学校給食を活用し、食育の充実を図った。</li> </ul> <p>（主な学校給食での取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月19日の食育の日に合わせて、ふるさと熊本の産物を使った日「くまさんデー」の実施等</li> </ul>
③ 食育の推進（学校教育課・教育政策課）	A	<p>（教育政策課）</p> <p>（主な学校給食での取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内放送で食材の種類や食材の効果を紹介</li> <li>・食材の効果や栄養について記載した学校給食献立表を各家庭に配付。</li> <li>・食に関する記事と市内の学校、園の学校給食に関する習字や標語等の作品を掲載した学校給食広報紙を発行した。これに併せて市内全ての学校、園の学校給食作品を市内の大型店舗や温泉センター等に展示を行った。</li> </ul> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食を通じた食育の推進等を目的に例年開催している八代市学校給食研究協議大会については、新型コロナウイルスの影響を考慮しオンデマンド開催とした。</li> <li>・各学校等のアレルギー対応食提供事業の担当者に対し説明会を開催し、食物アレルギーに関する周知・啓発を行うとともに、各学校・園では食物アレルギー疾患のある園児・児童生徒への対応について共通理解を図り組織として対応できるよう努めた。</li> <li>・また、アレルギー対応については、令和4年度に診療報酬が改定されたことにより学校生活管理指導表の文書料に関し保険適用の不均衡が生じたため、補助制度を創設し問題の解消を図った。</li> </ul>

#### 4. 今後の課題と方向性

- ①体力の向上及び歯科保健の充実に関しては、研究推進校の取組や、結果が顕著であった学校の取組等を、学校保健説明会や体育主任研修会等のあらゆる機会を通して紹介し、各校の取組が充実していくよう指導助言を続けていく。(学校教育課)
- ②部活動改革に関しては、令和5年度中に実施モデルを選定し、改革が進みそうな学校及び活動から進めていく。また推進に時間を要する活動に関しては、部活動指導員を導入し、教員外指導者の拡充と合わせて休日に教師が従事しなくてもよい環境の整備を進めていく。(学校教育課)
- ③食育の推進に関しては、食育推進校の実践を幅広く紹介していくとともに、関係機関との連携も図りながら進めていく。(学校教育課)
- ③学校給食におけるアレルギー対応が複雑化しているため、献立作成や調理過程での確認作業等をより慎重に行い、学校及び家庭と連携しながら丁寧に対応していく必要がある。また、提供食数が多い調理場では、アレルギー対応の複雑化を避けるため、他の調理場に比べ細やかな対応ができていない施設もあることから、対応の統一化について検討を進めていく必要がある。(教育政策課)

## 5.学識経験者等の意見

- ・厳しい社会情勢中でも、体力・健康の改善傾向はありがたく思う。
- ・体力・健康力の増強には、外遊びの楽しさ体験の推進や部活動改革の1つのポイントとしての大人の指導力・指導環境の整備工夫が必要だと思う。
- ・猛暑のなか、屋外で遊べない子どもたちの体力を維持する上で、学校体育館のエアコン設置は必要と考える。また地域住民も利用できる設備であるとありがたい。
- ・部活動改革については、あまり進展していないと感じる。保護者や子どもたちがその内容を認識出来ていない部分が多く不安に思っているため、部活動をしないことを選択する子どもたちが増えてきており、そのことが体力低下にも繋がっていると思うので、早くその不安を解消してほしい。

### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段:予算現額★ 下段:決算額	上段:当初予算 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額
①	学校教育課 就学時健康診断事業	小学校に来年度入学予定児に健康診断及び発達検査を実施し、治療の勧告や保健上必要な助言を行い、又は特別支援学校への就学に関し指導を行うなどの手立てを図る。	794	795	795	795
			747			
①	学校教育課 小・中・特・幼健康診断事業	学校医、学校歯科医との指導と協力により、疾病の早期発見、早期対策を樹立し、健康管理を行う。	60,292	60,233	60,233	60,233
			57,392			
①③	学校教育課 教育研究校事業(小中合算)	教育課程及び指導方法等について調査研究を行い、学習指導の改善充実及び教育課程の基準の改善に資する。 食育推進校、体力向上推進校を指定し、取組を各学校において共有を図る。	138	433	133	133
			93			
②	学校教育課 学校体育振興事業(小中合算)	(小学校)小学校体育連盟主催の大会への児童輸送費や小学校体育連盟後援の大会会場使用料等を補助。 (中学校)中学校体育連盟主催大会への生徒輸送費や大会会場使用料等を支出、八代市中学校体育連盟への補助金支出、県・九州・全国中学校体育大会出場者への旅費支給。	15,260	16,172	16,172	16,172
			12,039			
②	学校教育課 中学校部活動整備事業	休日の部活動の指導を望まない教師が部活動に従事しない環境の整備。	148	127	595	595
			64			
③	教育政策課 アレルギー対応食提供事業	食物アレルギー疾患をもつ児童等に対して等しく安全に除去食又は代替食の学校給食を提供する。	244	267	270	270
			237			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

# 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 1 子どもたち一人一人の「生きる力」を育みます

基本方針

## (5) 特別支援教育の推進

### 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
配慮を要する児童生徒において個別の教育支援計画が作成された割合 (%) (上段：通常学級、下段：特別支援学級)	64	70	99				80.0	
	100	100	100				100 を維持	
個別の教育支援計画の引継ぎが行われた割合 (%)	100	100	100				100 を維持	

### 2. 成果指標の進捗状況 ※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

- ・ 個別の教育支援計画の作成は、研修の実施や文書等での周知の効果もあり、確実に実施されている。
- ・ 個別の教育支援計画等の支援内容の引継ぎは100%を達成しており、学校・園と各関係機関との連携によって、確実な引継ぎ・切れ目ない支援が行われている。

### 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策(担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 幼稚園及び小・中学校における特別支援教育の充実(学校教育課)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒への指導や支援については、各学校の校内委員会の充実による学校・園全体で特別支援教育に取り組む体制の構築や、個別の教育支援計画の作成・活用を推進した。</li> <li>・ 研修会等で事例を紹介し、関係機関との情報共有や連携強化を図った。</li> <li>・ 特別支援学級に在籍する児童生徒への指導や支援については、特別支援教育コーディネーター研修会・特別支援教育支援員研修会の実施により担当教員及び支援員の専門性向上を図った。</li> <li>・ 八代市を8ブロックに分け、各ブロックごとにブロック相談員を配置することにより各ブロックの研修や情報交換の活性化を図り、経験の少ない教員へのサポート体制の整備を行った。</li> <li>・ 特に特別支援学級在籍及び通級による指導を利用している児童生徒においては、個別の教育支援計画の作成及び引継ぎが確実に行われ、個々の児童生徒等の障がいの状態や特性及び心身の発達段階等に応じた適切な支援が実施された。</li> </ul>
② 八代支援学校における特別支援教育の充実(学校教育課)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 八代支援学校においては特別支援学校教諭免許状所有率の向上を図るとともに、基礎講座を実施し、特別支援教育の充実を図った。</li> <li>・ 看護師4人の配置により医療的ケアの実施体制を整備し安心安全な校内環境を提供できたほか、小学校配置の看護師とも情報交換を行った。</li> <li>・ 鏡わかあゆ高等支援学校とともに特別支援教育コーディネーター等による巡回相談事業により、高い専門性を生かし他校等を積極的に支援するなど、センター的機能を発揮できた。(R4巡回相談事業15回)</li> </ul>

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
③ 特別支援教育を推進する体制の整備（学校教育課・教育サポートセンター）	B	（学校教育課） ・特別支援連携協議会を開催し、総合的な支援体制の整備を行った。 ・共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育を専門家チームや巡回相談員と連携し情報交換しながら実施した。 ・関係機関と連携し、早期から就学相談や教育相談を実施した。（5月から2月で延べ180人） ・通常学級と特別支援学級や八代支援学校との交流や共同学習を推進した。
	B	（教育サポートセンター） ・子供たちやその保護者の抱える課題や困り感は、一人一人の状況により異なっている。特別支援教育アドバイザーが、一人一人の状況に応じて、必要且つ適切な見立てを行い、課題や困り感の改善に向けて、専門的知識や経験を生かして適切な助言・アドバイスを行うことができた。アドバイザーに関しては、令和2年度から2人体制となったが、令和4年度に関しては1人が欠員となり、1人で対応した。年間1,405件（のべ件数）の業務を行った。
④ 保護者、地域及び関係機関との連携（学校教育課）	B	・保護者等に対する特別支援教育就学説明会を開催した。（4月、10月） ・八代市PTA連絡協議会との教育懇談会等の会議の場において、特別支援教育に関する資料を配付するなど、保護者や地域等に、特別支援教育の理解促進を図った。 ・教職員が必要に応じて情報提供できるよう、関係機関との連携を強化した。 ・個別の教育支援計画の活用を促し、適切な切れ目ない教育的支援の共有を図った。 ・保護者が、子どもの障がいの状態に応じた多様な学びの場についての情報を得られるよう、教育委員会や園・学校からの適切な情報発信を行った。 ・障がいの早期発見・早期支援の重要性について、関係機関と連携した保護者への理解・啓発を促した。

#### 4. 今後の課題と方向性

①個別の教育支援計画等の支援内容の引継ぎは確実に行えている。今後も学校・園と各関係機関との連携を強化し、確実な引継ぎ及び切れ目ない支援を実施していくとともに、各研修会において特別支援教育担当教員及び支援員のさらなる専門性の向上を図っていく。（学校教育課）
②特別支援教育コーディネーター等による巡回相談事業も県の事業として行っているが、R4年度15回とまだ回数に余裕があるので、より利用の充実を目指したい。（学校教育課）
③今後も、専門家や巡回相談員、関係機関と連携をとり、特別支援教育を推進する体制の整備を図っていく。（学校教育課）
③特別支援教育アドバイザーについて、令和5年度から欠員が解消され、再び2人体制での支援ができるようになっている。学校、園、保護者からの依頼が非常に多くなっていることを踏まえ、現状の対応体制を維持していく。また、よりよい対応を行うためにその他の関係機関・事業所等（八代支援学校、熊本県こども総合療育センター、八代教育事務所所属のスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、放課後等デイサービス、心療内科、県立支援学校、高等学校等）とケースにより情報共有・交換及び連携を今後も継続して推進していく。毎日、複数の派遣依頼があることから、適切な対応件数に調整していきたい。（教育サポートセンター）
④今後も、様々な機会を活用し、保護者、地域、関係機関と連携を図っていく。（学校教育課）

#### 5. 学識経験者等の意見

外部評価年度：令和6年度
--------------

<施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段:予算現額★ 下段:決算額	上段:当初予算 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額
①②	学校教育課 特別支援教育 推進事業	特別支援教育担当者研修会の開催及び県主催研修会 への教職員派遣を行い、各学校の担当職員の指導力 の向上を図る。	1,580	1,621	1,630	1,630
			1,144			
③④	教育サポートセンター 特別支援教育 相談事業	特別支援教育アドバイザーを設置し、担任・特別支 援教育コーディネーター・保護者などの相談を受 け、特別な支援を要する児童生徒のニーズを把握、 必要な支援内容と方法等について助言を行い課題解 決を図る。	4,818	4,702	4,820	4,850
			2,451			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

# 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 2 教育環境の整備により学校・幼稚園の教育力を高めます

基本方針

(6) 9年間を見通した「八代型小中一貫・連携教育」の推進

## 1.成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
「中学生になるのは楽しみですか」項目の割合 (%)	84.5	81.4	81.5				85	

## 2.成果指標の進捗状況 ※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

・各校区で義務教育9年間を見通した系統的・継続的な学習指導や生徒指導が行われており、児童が中学校への見通しをもつことができた。  
 ・ここ数年、新型コロナウイルス感染拡大防止により、児童生徒の交流、教職員の合同研修、地域との連携の機会が減少している。

## 3.基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策(担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 小・中学校教職員による協働体制の整備(学校教育課)	A	・各校区において、小・中学校の教職員の連携体制が組織化されており、系統的な指導の充実の視点から、学力向上や学校生活の充実に努めることができた。 ・各学校に小中一貫コーディネーターを位置付け、コーディネーターを中心に推進の充実を図ることができた。
② 9年間の育ちと学びをつなぐ指導の充実(学校教育課)	B	・5月に小中一貫コーディネーター研修会を実施し、取組の方向性を確認した。 ・「やつしろスピリッツ」を基盤として、各校区で共通実践に取り組み、義務教育9年間を見通した系統的・継続的な指導が充実してきた。取組から9年目となり、連携カリキュラムの見直し、改善を更に行う必要がある。
③ 保護者・地域と一体となった学校応援団づくり(学校教育課)	B	・地域との連携・協働体制はできているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動の縮小や中止などがあった。しかし、地域の特色を生かした教育活動のために、可能な範囲での活動の工夫がなされた。

#### 4. 今後の課題と方向性

- ①八代型小中一貫・連携教育は、取組から9年目を迎え、協力体制は整備されているが、今の教育活動に合った協力体制の見直しも必要である。
- ②連携教育の充実を図られていることから、一貫教育の視点から各教科や生徒指導面からの系統的な計画の作成、実施が必要である。
- ③保護者や地域住民に学校の教育活動を積極的に発信し、地域と学校が一体となった取組の充実を図る。
- (①～③学校教育課)

#### 5. 学識経験者等の意見

外部評価年度：令和7年度

#### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段：予算現額★ 下段：決算額	上段：当初予算 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額
②	学校教育課 小中一貫・連携教育推進事業	義務教育9年間を通して、系統的・組織的な学習指導や生徒指導を行うことで、確かな学力、豊かな心、健やかな体などの「生きる力」の育成を図るための小中一貫・連携教育推進体制を整備する。	2,050	1,344	1,360	1,360
			1,104			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

# 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 2 教育環境の整備により学校・幼稚園の教育力を高めます

基本方針

(7) 教職員の資質・指導力の向上

## 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
勤務時間外在校等時間が月45時間以上の教職員の割合 (%)	37.3	37.1	30.1				0%に向け前年度より減少	
「昨年度と比べ、子供たちと向き合う時間が増えたと思う」と回答した教職員の割合 (%)	35.0	37.0	33.2				80%に向け前年度より増加	

## 2. 成果指標の進捗状況 ※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

・勤務時間外在校等時間が月45時間以上の割合は、年々減少傾向ではあるが、教職員の人材不足等、改善を要する内容があるため、ICT機器を効果的に活用していく。

## 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策 (担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 教職員の人材育成 (学校教育課・教育サポートセンター)	B	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学校における人材育成については、定例校長・園長会議にて周知を行い、学校訪問等でも管理職へ伝えてきた。</li> <li>市独自で初任者や各支援員へ向けての研修会、その他、ゲートキーパー養成研修会、学力調査活用研修会、小中一貫連携教育コーディネーター研修会、英語担当者研修会、ICT (スタディサプリ) 研修会等を行い、教職員の人材育成を図った。</li> </ul>
	B	<p>【教育サポートセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員がICT機器を有効に活用して授業等に臨むことができるようにタブレットパソコン活用研修会を5月、6月で4回実施し、合計120人の教職員が参加した。さらに、参加した教職員から各学校の他の職員に研修内容が周知されるように促した。</li> <li>校内・園内研修推進事業については、年間で52件の派遣を行い、授業における指導方法や考え方等について助言を行った。</li> <li>研究部会の「授業づくり研究部会」においては、年間5回の研究授業を行い、指導力を発揮できる人材の育成を図った。</li> <li>New Teacher Meeting (サポートセンター新任研)、市2年目教員研修、スキルアップチャレンジ教室、トワイライトセミナー等の若手教職員を対象とした研修を実施し、延べ337人の教職員が参加した。</li> <li>不登校対応研修会【令和4年度 新規】①5月24日(火) 37人 ②6月14日(火) 37人</li> <li>伝統・文化セミナー 7月26日(火) お祭りでんでん館 20人</li> <li>特別支援教育アドバンス研修会 8月2日(火) 38人</li> <li>年頭研修会【オンデマンド】1月5日(火)～1月17日(火) 756人</li> <li>演題 「命の授業 ～ドリー夢メーカーと今を生きる～」 講師 腰塚 勇人 氏</li> </ul>

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
② 教育活動の支援（教育サポートセンター）	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育サポート事業として、教育サポーターが学校経営や授業の進め方等へのアドバイスをを行い、年間で468件の対応をした。</li> <li>・研究部会の7部会それぞれにおいて研究を前進させた。特に、「特別活動研究部会」及び「情報教育部会」については、研究成果を年頭研修会で発表し、各学校・園への周知を図った。</li> <li>・「環境教育部会」や「郷土学習部会」において、副読本の内容を更新し、ホームページに掲載するなど、活用に向けて周知を図った。</li> </ul>
③ 教職員の業務効率化の推進（学校教育課）	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校における働き方改革アクションプラン」に則り、各学校で教職員の長時間労働の解消に努めてきた。</li> <li>・学校安全衛生委員会を年2回開催し、各学校・園での働き方改革の取組について意見交換を行い、会の中で出された主な意見を定例校長・園長会議にて周知した。</li> <li>・各学校・園からの意見を集約した「働き方改革事例集」を作成し、ミライム掲示板に掲載し、各学校・園で常時活用できる体制を構築した。</li> <li>・ICT教育に関するサポーターとして10人（ICT授業サポーター）を配置し、ICTのスムーズな運用が進んできている。</li> </ul>

#### 4. 今後の課題と方向性

- ①各学校・園において、ベテラン教師から若手教師への助言やアドバイスなどのOJTを推進し、引き続き実態に応じた研修会の充実を図っていく。(学校教育課)
- ①今後もICT機器の有効な利用が進むよう、教職員に対しての研修を継続していく。特に、管外から異動してきた教職員等、本市のICT機器を使い慣れていない教職員に対しては重点的に研修を行う。
- 校内・園内研修に関しては、教職員が主体的に研修を深めることができるよう、ワークショップ等の活動を取り入れながら指導・助言を行う。(教育サポートセンター)
- ②「授業づくり研究部会」においては、継続的に研究を深めるとともに、その研究成果が学校現場の若手の教職員にも再現できるよう発信のあり方を工夫する。研究の内容については、年頭研修会を利用して周知する。「特別活動研究部会」においては、いじめや不登校に関する課題にも対応させるために、特別活動の枠を超えた「集団づくり」等、学校生活全般に関わる研究内容に移行していくことを検討する。(教育サポートセンター)
- ③教職員の業務効率化の推進に関しては、学校安全衛生委員会が出された内容や、「働き方改革アクションプランアンケート」の内容を公表し、好事例の紹介を行うことで、各校の働き方改革を推進していく。(学校教育課)

#### 5. 学識経験者等の意見

- ・教職員の皆さんが元気に笑顔で心に余裕を持って、学習者である子どもたちに接することが出来る方向にあることは、若干ではあるが改善の傾向にあると思うが、更なる人員・人材の確保が必要である。
- ・教職員の働き方改革が進み、余裕を持った指導がなされるよう願っている。

<施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段:予算現額★ 下段:決算額	上段:当初予算 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額
①	教育サポートセンター 教職員研修会 事業	教職員としての指導力及び資質を高めるとともに、保護者の家庭教育における重要性を啓発することを目的とし、「タブレットパソコン活用研修会」「不登校対応研修会」「年頭研修会」「伝統・文化セミナー」等を開催する。	167	155	160	170
			42			
①	教育サポートセンター 教育論文・実践記録募集事業	八代市立の幼稚園、小・中、特別支援学校の教職員を対象に「教育論文」と「実践記録」を募集し、「目標-計画-実践-検証」のサイクルに基づいた教育実践の意識を高め、指導力の向上を図る。	29	29	29	29
			22			
②	教育サポートセンター 教育サポート事業	経験豊かで実践的指導力に長けた2名の退職教員を教育サポートセンターに配置し、校長・園長の要請に基づき教育現場における様々な支援を行う。	5,460	5,590	6,100	5,600
			5,323			
②	教育サポートセンター 研究部会事業	各教育課題を担当する研究部会(7部会)を月1回程度開催し、教育現場に直結する諸問題の調査・研究を行い、それらを還元するために副読本及び研究成果資料を作成する。	84	75	81	81
			17			
③	教育政策課 校務支援推進事業	児童生徒の名簿作成、出欠管理、授業時数管理、保健管理など、学校における各種業務を電子化し、互いに反映させながら業務の効率化を図ることで、教職員の負担を大幅に軽減し、教職員が児童生徒に向き合う時間的・心理的な余裕を生み出し、より質の高い教育の実現に繋げる。	23,671	23,671	54,671	24,000
			23,671			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

# 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 2 教育環境の整備により学校・幼稚園の教育力を高めます

基本方針

## (8) 学びを支える教育環境の整備

### 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
学校情報化優良校の認定校の割合 (%)	0	0	100				100	
教師用ノートパソコンのタブレット端末への入替率 (%)	0	0	100				100	
特別教室、少人数学級への大型提示装置とアクセスポイントの整備率 (%)	0	0	78.7				100	

### 2. 成果指標の進捗状況

※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

<p>(学校教育課)</p> <p>・令和4年1月31日に八代市が「学校情報化先進地域」に認定されるとともに、2月3日に最後の小学校が優良校に認定され、八代市内の小・中学校38校すべてが「学校情報化優良校」の認定を受けた。予定より1年早く成果を上げることができた。</p> <p>(教育政策課)</p> <p>教師用ノートパソコンのタブレット化及びアクセスポイントの整備については、令和4年度までに達成することができた。特別教室、少人数教室の大型提示装置については、順次、整備を進めていく予定である。</p>
--

### 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策(担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 学校支援職員等の配置 (学校教育課)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・園のニーズを把握し、学校支援職員等を配置した。学校・園からの要望、学校規模や状況に応じて、特別支援教育支援員70人、学校図書館支援員25人、生徒指導支援員7人、幼稚園保育支援員7人、看護師5人、理科支援員4人、日本語指導員3人、英語支援員3人を配置した。</li> <li>・幼児児童生徒の学びを多面的にサポートする学校支援職員等は各学校からの配置要望も多く、幅広く活用されていた。</li> <li>・インクルーシブ教育システムの構築に向けて、学校支援職員等は大きな役割を果たした。</li> </ul>
② 学校ICT環境の充実 (教育政策課)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度に八代市内の小・中学校全てが「学校情報化優良校」の認定を受け、予定より1年早く成果を上げている。</li> <li>・教師用ノートパソコンのタブレット化、及び特別教室、少人数学級への大型提示装置とアクセスポイント整備等、ハード面でのICT環境は概ね順調に整備が進んでいる。今後も計画的な機器更新と保守管理に努めていく。</li> <li>・ソフト面に関してはICT授業サポーターの活用が進み、プログラミング学習やデジタル教科書を用いた授業、タブレットPCによる課題提出等、着実にICTを活用した学習の機会は増えている。</li> <li>・令和4年度から、4年生以上の小学生及び中学生に対し学習支援ソフト(スタディサプリ)を導入し、朝課外や家庭学習での利用など、幅広い学習機会を提供している。</li> </ul>

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
③ 幼稚園・学校規模適正化の推進（学校教育課）	C	<p>規模適正化基本方針の策定に着手し、令和4年度中の策定を目指した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針の策定に向け、8月と9月に2度、学校教育課と幼稚園長会と「市立幼稚園に求められる具体的な姿や機能、要望、満3歳児保育等」を中心に協議を行った。</li> <li>・園児数増加に向けて「満3歳児保育の試行」をスタートさせ、園児数増加を図った。</li> <li>・八代市立幼稚園規模適正化等基本方針の策定作業を進めていく中、当初予定していた幼稚園を対象とした方針だけでなく、更に踏み込み、本市の就学前教育・保育全体を含めた方針を検討する必要があった。あらためて内容を再構築したため、令和4年度中の基本方針策定までには至らなかった。</li> </ul>
④ 就園、就学等への支援（学校教育課・教育政策課）	A	<p>（学校教育課）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的な理由により就学困難な児童生徒の保護者に対して、就学援助費（学用品費等、修学旅行費、医療費、給食費）の支給を行った。また、新一年生の対象世帯に対しては新入学用品費の入学前支給を行った。</li> <li>・特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、その負担能力の程度に応じ、就学に必要な経費の一部補助を行った。</li> </ul> <p>令和4年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学用品費等 小学校 1,258人 19,889千円、中学校 868人 25,369千円 （学用品費、校外活動費、新入学用品費、通学費、体育実技用具費）</li> <li>・修学旅行費 小学校 479人 4,520千円、中学校 237人 10,958千円</li> <li>・医療費 小学校 2人 25千円、中学校 1人 21千円</li> <li>・給食費 小学校 918人 42,016千円、中学校 559人 28,462千円</li> <li>・特別支援教育就学奨励費 小学校 689人 7,208千円、中学校 285人 4,542千円</li> </ul> <p>（教育政策課）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的理由により就学困難な生徒又は学生に対し、教育を受ける機会を提供し、有用な人材を育成することを目的に、奨学資金の貸付を行った。</li> </ul> <p>&lt;件数&gt; R4：貸付3件（申請3件）、R3貸付1件（申請1件）、R2貸付1件（申請1件）</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の統廃合等による通学困難な児童生徒及び特別支援学校における通学支援が必要な児童生徒に対し、スクールバスの運行や通学費用の補助を行った。また、特別支援学校については新型コロナウイルス感染症対策としてスクールバスを2台増便し運行した。通学支援を行うことで、児童生徒の安全安心な通学環境の確保を図ることができた。</li> </ul> <p>&lt;スクールバス利用者&gt; R4：333人、R3：308人、R2：335人</p>
⑤ 八代市学校・子ども教育応援基金の活用（教育政策課）	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年3月に基金を創設し、寄附を募るとともに、子どもの学力向上、いじめ・不登校対策、特別支援教育等に関する事業に、基金繰入金を毎年150万円程度充当、活用するもの。</li> <li>・基金の周知・広報として、リーフレットをふるさと情報誌「やつしろの風」に同封するとともに、周知・広報活動として、各支所・各コミュニティセンターへちらしを設置。また、広報やつしろ・エフエムやつしろを活用して寄附の募集を行った。（令和4年度の寄附額は、個人17件、189,000円 事業者1件、200,000円 参考：令和3年度5,180,000円）</li> <li>・令和4年度基金活用については、QUテスト、ICT教育推進モデル事業等の5事業に当初予算で約144万円を計上したものの、QUテストについては、令和4年度より導入された「i-check」の実施に伴い、類似のテストとして実施を希望しない学校が出たこと等により、約76万円の予算残が生じた。</li> </ul>

#### 4. 今後の課題と方向性

- ①幼児児童生徒の学びを多面的にサポートする学校支援職員等については、各学校・園からの配置要望は年々増加傾向にあるが、要望に対して十分な配置ができていない状況にまでは至っていない。学校の実態を把握した上で、学校支援職員等を適正に配置するとともに、より高い教育効果を狙うため、支援員研修会等により更なる専門性の向上を図っていく。(学校教育課)
- ②ICTを活用した学習の好事例を横展開することで、八代市立学校全体のレベルアップにつなげていく必要がある。また、大型提示装置については、突発的な破損や故障、教室の増減があるため、現状調査を実施し、随時、整備計画の見直しを図っていく必要がある。(教育政策課)
- ③八代市立幼稚園規模適正化では、本市の就学前教育の方向性を市長部局と連携し、八代市立幼稚園再編基本方針及び再編計画を策定していく。(学校教育課)
- ③学校規模適正化では、第2期学校規模適正化の再編計画に向けて協議をスタートさせる。学校教育課を事務局として、教育政策課、教育施設課、教育サポートセンター等と連携し、本事業について具体的な方向性が示せるよう取り組んでいく。(学校教育課)
- ④就学援助等の制度の周知を図り、経済的な理由により就学困難な児童生徒の保護者に対し、申請を促していく。(学校教育課)
- ④児童生徒数の減少等を踏まえ、効率的な通学支援が図れるよう車両の小型化や委託形態の見直しを行う必要がある。(教育政策課)
- ⑤基金の継続的な運用のため、引き続き寄附の周知に注力するとともに、目標とする年150万円程度の基金の活用のため、事業案を十分に精査し、着実な執行につなげる必要がある。(教育政策課)

#### 5. 学識経験者等の意見

外部評価年度：令和6年度

#### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段：予算現額★ 下段：決算額	上段：当初予算 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額
①	学校教育課 学校等支援職員配置事業	学校図書館支援員、特別支援教育支援員、生徒指導支援員、看護師、幼稚園保育支援員、英語支援員を配置し、教育活動を推進する。	131,256	139,878	148,500	157,000
			123,588			
②	教育政策課 ICT授業サポート事業	ICT授業サポーターによる小中・特別支援学校への巡回訪問支援を行い、授業、校務及び研修等におけるICT支援を行う。	42,112	43,379	43,400	199,518
			41,843			
②	教育政策課 ICT教育推進事業	児童・生徒にパソコン等の情報機器に接する機会を提供し、基本操作を習得することができるようパソコン室を整備する。また、情報機器を活用し、わかりやすく質の高い授業を実現し、事務を効率化することができるよう校務用パソコンを整備する。	192,436	174,190	175,000	175,000
			184,047			
③	学校教育課 学校統合等審議会事業	八代市立学校統合等審議会条例に基づき、教育委員会の諮問に応じ、小、中、特別支援学校の統合、分離、廃止等について調査・審議し、答申する。また、円滑な統合のため学校統合準備委員会を開催する。	0	0	400	400
			0			

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段：予算現額★ 下段：決算額	上段：当初予算 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額
④	学校教育課 要保護・準要 保護就学援助 事業	経済的な理由により就学困難な児童生徒の保護者に対して学用品費、通学費、修学旅行費、医療費等の費用の援助を行う。特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、その負担能力の程度に応じ、就学に必要な経費の一部補助を行う。	79,656	79,693	79,700	79,700
			72,532			
④	教育政策課 準要保護就学 援助事業	経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学校給食費の援助を行う。	74,375	73,373	73,400	73,400
			70,478			
④	教育政策課 奨学資金貸付 事業	経済的理由により就学が困難である者で、高等学校、高等専門学校、専門学校、短期大学、大学に就学する者に対し、奨学金を貸与し、教育を受ける機会を与え有用な人材を育成するもの。	2,957	4,087	6,067	6,907
			2,065			
④	教育政策課 学校通学関係 事業	遠距離等により通学困難な児童生徒の支援のため、スクールバス運行及び通学に要する経費の補助を行い、安全安心な通学環境を確保する。また、新たに統廃合する学校に対し、円滑な学校運営のための環境整備を行う。	92,911	99,353	90,000	90,000
			85,478			
④	教育政策課 寄宿舎管理事 業	遠距離通学にかかる生徒及び保護者の負担を軽減するため、久連子、椎原、仁田尾、葉木地区等に住む生徒を、平日は寄宿舎（石楠花寮）に入舎させ、週末は帰宅させる。その寄宿舎の管理運営を行う。	11,668	11,798	11,700	11,700
			9,374			
⑤	教育政策課 八代市学校・ 子ども教育応 援基金事業	「八代市学校・子ども教育応援基金」を創設し、市内外からの寄付を募り、市も必要に応じ寄付に加えて基金へ積み立て、学校教育の充実・振興に係る事業に活用する。	1,101	1,103	1,103	1,103
			475			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

# 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 2 教育環境の整備により学校・幼稚園の教育力を高めます

基本方針

## (9) 安全・安心な学校づくりの推進

### 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
非構造部材である外壁の点検実施率 (%)	0.0	11.1	55.0				100.0	
小中学校トイレの洋便器率 (%)	40.6	41.0	49.3				66.9	

### 2. 成果指標の進捗状況

※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

・外壁の点検については令和4年度に12件（小学校6校、中学校5校、幼稚園1園）実施し、令和4年度末の点検実施率は55.0%であった。令和5年度にも9件（小学校5件、中学校4件）を実施しており、計画的に点検を実行できている。トイレの洋便器率については、令和4年度末で49.3%となっており、目標値を上回る「令和7年度末で80%達成」を目指している。

### 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 安全教育・防災教育の推進（学校教育課）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度中に「くまもとマイタイムライン」の作成及び見直しは全学校で完了し、実施率100%を達成した。今後も新入生の作成及び在校生の見直しを確実にを行うよう指導する。また、学校安全全体計画の年度ごとの確実な見直しについて、定例校長・園長会議等を通して周知、指導を行っていく。</li> </ul>
② 学校施設非構造部材耐震化等の推進（教育施設課）	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度より実施している外壁の点検については令和4年度に12件を、業務委託により調査を実施し年度内に完了した。また、令和元年度に点検調査を実施した小学校1校について、外壁劣化が進んでいることが明らかとなったことから、R3.3月補正にて工事費の予算を確保し、令和4年度に外壁改修工事を行い、児童・先生の安全確保を行った。</li> <li>非構造部材である「吊下げ式スクリーンの撤去」を小学校2校で実施した。</li> <li>避難所として必要なライフラインの確保のため、R4.12月補正にて工事費の予算を確保し、令和4年度から令和5年度に掛けて「耐震性受水槽の新設工事」を中学校1校で実施している。</li> <li>屋外トイレを小学校1校で改築し、大規模災害時における車中泊避難者等への防災機能の強化を図った。</li> </ul>
③ 学校・幼稚園施設の整備・充実（教育施設課）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校等施設整備事業において、バックネット改修工事（小1校）、防球フェンス改修工事（中1校）、特別支援教室空調設置工事（中2校）などを実施した。</li> <li>学校からの施設整備依頼書などに基づき、突発的な機器の故障や建具等の不具合などについて、235件の修繕を行った。</li> <li>トイレの洋便器率（41%）を向上し、臭いの発生や配管の詰まりを解消させることで、トイレ環境の改善がさらに図れるようトイレ改修工事（小中各1校）を行った。また「校舎トイレの和便器の洋便器化」を2校（中2校）、「体育館トイレの和便器の洋便器化」を2校（小中各1校）で行った。</li> <li>R4.12月補正にて工事費の予算を確保しトイレ改修工事（小1校）を行った。</li> </ul>

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
④ 学校給食施設の再編整備・運営形態の見直し（教育政策課）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全安心でおいしい学校給食を将来にわたり安定的に提供していくため、令和3年度に策定した「八代市学校給食施設再編整備方針」に基づき、「八代市学校給食施設基本計画」を策定し、新たに2つの学校給食センターを整備することとした。</li> <li>・計画の策定にあたっては、プロポーザル方式において学校給食施設の再編統合に関する高度な知識と他自治体での実績のある事業所を選定し、その支援を受けて策定した。</li> <li>・新たな給食センターの整備については、国や市の規定に基づき、PFI方式等の事業手法の検討を行い、民間業者間の連携が図りやすく経費節減が期待でき、事業期間の短縮が最も見込める「DB+O方式」を採用することとした。</li> </ul> ※DB+O方式・・・設計と建設を一括発注し、運営等や維持管理は別発注とする方式

#### 4. 今後の課題と方向性

①・学校安全全体計画の年度ごとの見直しとともに、マイタイムラインの見直し及び新入生への作成を引き続き各校に求めている。
・八代河川国道事務所及び県南広域本部等の関係機関とも連携し、各学校が取り組みやすいプログラム等を作成し、提供することで、安全教育・防災教育の推進を図っていく。(学校教育課)
②非構造部材の耐震改修は、その部位が多岐に渡るため優先順位を付け、計画的に実施していく必要があるが、財源に国の交付金を活用していることから、その事業採択により進捗が大きく左右される。また、整備に係る予算の確保が難しくなっていることから、整備手法の検討やコスト削減を図りつつ、学校施設の耐震対策など安全安心な施設整備に取り組んでいく。(教育施設課)
③学校、幼稚園施設の老朽化が進む中、最優先に解決すべき課題としてトイレ洋式化が挙げられており、令和6年度と7年度は膨大なトイレ改修工事の実施を計画しているが、発注課の職員体制（担当建築・設備系職員）の確保とともに、工事が夏休みや土日に集中するため、円滑な工事管理がなされるよう工事監理者（職員）の管理体制についても十分な人員配置が求められる。(教育施設課)
④・既存の給食施設については新センター供用開始まで安全安心な給食を継続するため、施設設備等の適切な維持補修を行う必要がある。
・単独調理校については、保護者等に対しセンター方式への変更に対する理解が得られるよう配慮する必要がある。
・多くの調理場で老朽化が進んでいることから、新たな学校給食センターの用地買収や設計施工といった整備事業を遅延なく進めていく必要がある。(教育政策課)

#### 5. 学識経験者等の意見

外部評価年度：令和7年度
--------------

#### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段：予算現額★ 下段：決算額	上段：当初予算 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額
②	教育施設課 学校等非構造 部材耐震化事 業（小中幼合 算）	地震時における児童生徒等の安全及び大規模災害時の避難所機能を確保するため、小・中・支援学校及び幼稚園施設の非構造部材（吊り天井、照明器具、ガラス等）の落下防止対策等の工事を行うもの。	109,644	38,184	207,624	207,624
			107,623			

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段:予算現額★ 下段:決算額	上段:当初予算 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額
③	教育施設課 学校等非構造 部材耐震化事 業(小中幼合 算)	地震時における児童生徒等の安全及び大規模災害時の避難所機能を確保するため、小・中・支援学校及び幼稚園施設の非構造部材(吊り天井、照明器具、ガラス等)の落下防止対策等の工事を行うもの。	109,644	38,184	207,624	207,624
			107,623			
③	教育施設課 学校等施設整 備事業(小中 支援幼合算)	安全で快適な教育環境を提供するため、緊急対応が必要な修繕や機能の維持・向上のための施設整備を行う。また、大規模災害時に避難所となる学校施設について、通路のバリアフリー化や屋外のトイレ・通路照明の整備等を行う。	273,763	174,207	447,907	447,907
			183,963			
③	教育施設課 学校等施設管 理事業(小中 支援幼合算)	小・中・支援学校及び幼稚園施設について、施設設備の法令に基づく定期点検などのほか、学校環境を維持するための管理を行うもの。	80,328	82,679	82,700	82,700
			77,602			
③	教育施設課 学校等施設ト イレ改修事業 (小中合算)	小・中学校トイレの洋式化が進んでいないことに加え、老朽化に伴うにおいの発生や配管等の詰まりなどが発生しているため、小・中学校及び幼稚園のトイレの洋式化や給排水管等の改修に加え、内装の改修を行うもの。	297,800	171,366	841,121	841,121
			237,190			
④	教育政策課 学校給食施設 管理運営事業 (単独調理校)	①学校給食従事者の労務管理及び研修の実施 ②学校給食の運営、学校給食の実施に必要な施設設備の維持管理及び整備 ③受配校・園における学校給食の実施体制の維持管理及び整備(単独調理校)	68,493	69,683	69,700	69,700
			61,917			
④	教育政策課 学校給食施設 管理運営事業 (給食セン ター)	①学校給食従事者の労務管理及び研修の実施 ②学校給食の運営、学校給食の実施に必要な施設設備の維持管理及び整備 ③受配校・園における学校給食の実施体制の維持管理及び整備(給食センター)	187,520	146,457	146,500	146,500
			178,564			
④	教育政策課 学校給食施設 再編整備事業	①新学校給食センターの用地買収の実施 ②DB事業者公募に伴う公募資料等の作成 ③新給食センターの設計及び施工、備品等の購入 ④単独調理校のセンター方式変更に伴う給食受庫等の整備 ⑤使わなくなった調理場の解体	0	14,835	19,369	
			0			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

# 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 3 学校・家庭・地域の協働により社会全体の教育力を高めます

## 基本方針

### (10) 学校・家庭・地域の連携・協働

#### 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
地域学校協働活動カバー率 (%)	25	71	100				100	
地域学校協働活動ボランティア数 (人)	1,609	2,617	3,164				5,000	
人材ボランティア登録者数 (人)	0	10	21				30	

#### 2. 成果指標の進捗状況 ※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

地域学校協働活動は、令和3年度に全ての市立小・中・特別支援学校で導入し、地域コーディネーターを中心に学校と連携・協働して行っている。活動実績は増加しており、それに伴い協力いただいているボランティアの延べ参加人数も増加している。また、人材ボランティア登録者数も順調に増加しており、「学校・家庭・地域の連携・協働」のカテゴリーにおいては、令和7年度の数値目標に向けて概ね順調である。

#### 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策(担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 地域学校協働活動推進事業の充実(生涯学習課)	B	<p>地域学校協働活動事業 実施校：市内すべての小・中・特別支援学校(39校)</p> <p>ア さまざまな学校協力活動 内容： 家庭科・書道指導支援・読み聞かせ・美化作業・農業体験・校内消毒作業・交通指導・学習支援・クラブ活動支援等 実績： 1,682日、延べ参加ボランティア数3,164人 ・未来を担う子供たちの育成に繋がった。</p> <p>イ 地域未来塾(9校) 第一中:別室登校対応:英語・国語・相談見守、回数30回 延208人 第三中:別室登校対応:英語・数学・相談見守、回数104回 延243人 第四中:英語・数学・理科・社会、24人(1~3年生)、回数45回 延300人 第六中:英語・数学、(3年生)、回数49回 延164人 第八中:夏休み期間:夏休みの課題、(1~2年生)回数10回 延191人 日奈久中:夏休み期間:夏休みの課題、(1~3年生)回数7回 延81人 二見中:英語・数学、11人(1~3年生)、回数36回 延315人 千丁中:夏休み期間:夏休みの課題、(1~3年生)回数8回 延163人 鏡中:別室登校対応:英語・数学・国語・相談見守、回数64回 延324人 ・生徒の学力向上及び心のケアに繋がった。</p> <p style="text-align: right;">(次頁へつづく)</p>

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
		<p>ウ 放課後子ども教室（2校）</p> <p>内容：宿題サポート、お話し会、ゲーム大会、ビンゴ大会、パズル遊び、和太鼓体験、空手体験、ぬりえ、折り紙、七夕かざり、体育館で遊ぼう等</p> <p>昭和小：18人（1～3年生）、回数32回、参加生徒延407人</p> <p>泉小：7人（1～2年生）、回数52回、参加生徒延343人</p> <p>・子供たちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりに繋がっている。</p> <p>エ 地域学校協働本部の開催と研修会の実施</p> <p>・地域学校協働本部：年3回開催</p> <p>・熊本県人づくり講座の開催：2回開催</p> <p>■地域学校協働活動実施率（1年前倒しで、実施率100%を達成）</p> <p>100% 令和4年度 市内全小中特別支援学校で実施</p> <p>100% 令和3年度 市内全小中特別支援学校で実施</p> <p>71% 令和2年度 28小中特別支援学校で実施</p>
② コミュニティ・スクールの導入及び充実（学校教育課）	B	<p>・令和4年度末までに公立小・中・特別支援学校のうち、82%がコミュニティ・スクールの設置が完了しており、令和5年度初めには全ての学校において設置完了の見込みである。（令和5年6月設置完了）</p> <p>・学校運営協議会において、学校運営に関する基本方針の承認等を行うことにより、地域等の理解・協力を得ながら、協働して教育活動を推進する体制が整った。</p>
③ ボランティア人材の確保（生涯学習課）	B	<p>令和4年度においては、3名の登録があった。3名はそれぞれ、マナー研修、パソコン研修、環境問題に長けたボランティアスタッフであるため、専門的な講師として活用することにより、本市の学びの場の幅が広がった。</p>

#### 4.今後の課題と方向性

<p>①地域学校協働活動において、地域と学校をつなぐ地域コーディネーターは重要な役割を担っている。これまで、地域学校協働本部として研修を行い、連絡調整会議の中で地域コーディネーターの人材育成のための研修を行ったり、地域コーディネーター間での情報交換を行う機会を設けるなど、地域コーディネーターとしての資質向上に努めており、活動の質が向上し活発に活動している学校も増加している。しかし、全ての学校において十分な活動ができているとは言えない状況にある。</p> <p>活発な活動を行うためには、学校側のニーズの高まりと、意識の変容が不可欠であるため、学校や地域への事業の周知・啓発及び情報の提供に力を入れていく。また、地域コーディネーターと学校担当者との意見交換の場を引続き設けていく。地域コーディネーターと学校側との連携を強化することができれば、地域コーディネーターの培われた知識が活用され、学校側のニーズに沿った活発な活動ができると考えている。（生涯学習課）</p> <p>②各学校においてコミュニティ・スクールを機能させ、特色ある学校づくりを展開するために、地域学校協働活動との総体的な活動の工夫が必要である。（学校教育課）</p> <p>③人材ボランティア登録者数は、順調に増加している。引き続き周知を行いボランティア人材の確保に努めたい。（生涯学習課）</p>
---

## 5.学識経験者等の意見

- ・地域学校協働活動カバー率が令和4年度に100%に達していることは、いかに急速に趣旨の徹底や企画立案、実践化がなされたか、目を見張るものがある。今後は、連携・協働の内容の充実ということになると思うので、地域の皆さんと夢を語り合い、各校区・学校の特色ある活動がなされることを大いに期待する。
- ・人材ボランティア登録者数が増えるよう願っている。

### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段:予算現額★ 下段:決算額	上段:当初予算 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額
①	生涯学習課 学校・家庭・ 地域の連携協 力推進事業	地域と学校が連携・協働し、地域全体で支えるため、様々な学校協力活動や放課後の居場所づくり、学習支援等を支援する。また、各学校へ地域コーディネーターの配置や情報共有、人材育成等を図っていく。	6,683	6,996	6,996	6,996
			5,184			
②	学校教育課 コミュニティ スクール推進 事業	すべての学校・園において移行が完了した国版のコミュニティ・スクールの支援のため、学校運営協議会委員への謝礼等を支出する。	1,512	1,232	1,230	1,230
			784			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

# 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 3 学校・家庭・地域の協働により社会全体の教育力を高めます

## 基本方針

### (11) 家庭における教育力の向上

#### 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
家庭教育について学んだ園・学校の割合 (%)	68.6	51.9	58.3				70.0	
市が開催する研修会等の参加者数 (人)	149	—	29				200	

#### 2. 成果指標の進捗状況 ※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

- ・家庭教育学級開設園・学校は令和2年度はコロナ禍のため減少したものの、再び増加傾向にある。
- ・令和4年度の研修会の参加者数はコロナ禍のため、減少した。4年度は2回開催したが、2回目をオンデマンド研修会にしたため、参加人員の把握ができなかった。

#### 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策 (担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 家庭教育の充実 (生涯学習課)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭教育学級に対し、講師 (社会教育指導員・生涯学習指導者等) の紹介や派遣などを行い、学級活動を支援した。</li> <li>・未開設の園・学校を訪問して学級開設を促進することで、3学級が新規開設された。(62学級) ※62学級のうち1学級は幼稚園部と保育園部が統合したもの</li> <li>・家庭教育学級運営のしおりを各学級に発送し、スムーズな学級運営が出来るよう支援した。また、家庭教育に関するオンライン研修会を実施し、家庭の教育力向上に努めた。</li> </ul> <p>■家庭教育学級の開設の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園：51% ・幼稚園：75% ・認定こども園：60%</li> <li>・小学校：82% ・中学校：33% ・特別支援学校：100%</li> </ul>
② 保護者への支援 (教育サポートセンター)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども支援相談室において、年間339件の相談があった。相談者の悩みに寄り添うというスタンスで相談業務を行い、同じ相談者が複数回にわたって相談をするというケースも多かった。状況によっては学校・園、関係機関とも連携を図って対応した。</li> </ul>

#### 4. 今後の課題と方向性

- ①家庭教育学級の未開設園・学校や開設後の運営に苦慮している学級がみられる。家庭教育学級運営委員研修会や親の学びプログラム等を開催し、家庭教育学級が効果的に運営できるよう支援していきたい。また、未開設園・学校にも家庭教育学級運営委員研修会に参加してもらい、開設への働きかけを行い、家庭教育力の向上に繋げていきたい。(生涯学習課)
- ②今後も継続的に保護者の悩みに寄り添った相談室を継続していく。相談内容によっては、学校や園と共通理解するとともに、関係機関の協力も得ながら支援を進めていく。(教育サポートセンター)

#### 5. 学識経験者等の意見

外部評価年度：令和6年度

#### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段：予算現額★ 下段：決算額	上段：当初予算 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額
①	教育サポートセンター 教職員研修会 事業	教職員としての指導力及び資質を高めるとともに、保護者の家庭教育における重要性を啓発することを目的とし、「タブレット活用研修会」「不登校対応研修会」「年頭研修会」「伝統・文化セミナー」等を開催する。	167	155	160	170
			42			
②	教育サポートセンター 子ども支援相 談事業	いじめ・不登校等をはじめとする教育的諸問題について、児童生徒・その保護者・教職員等に対し、相談員が支援・助言を行い、その解決を図る。	1,913	2,004	2,100	2,190
			1,878			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

## 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 3 学校・家庭・地域の協働により社会全体の教育力を高めます

基本方針

(12) 地域における教育力の向上

### 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
まなびフェスタ来場者数(人)	1,266	—	1,185				1,300	
まなびフェスタ参加団体数(ステージ発表・展示・体験等)(団体)	26	—	25				28	

### 2. 成果指標の進捗状況 ※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

・来場者数は、コロナ禍ということもあり、令和元年度よりも少ないが、イベント時間の短縮、講演会における人数制限など、できる限りの対策や工夫を行い、開催した。  
・参加団体数は、例年並みだった。

### 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策(担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 地域(団体)で子どもを守り育てる活動の推進(生涯学習課)	B	「さかもと八竜天文台に泊まろう!~天体観測と体験活動~」や「親子で楽しもう!里山体験」を行い、坂本地域でのトレッキングや東陽地域の住民と連携し、竹細工体験、炊飯活動を行うなど、家庭や学校では体験できない自然体験活動や地域世代間交流を通じ、青少年の健全育成を図った。
② 社会教育団体の育成(生涯学習課)	B	・八代市地域婦人会連絡協議会、八代市子ども会連合会及び八代市PTA連絡協議会への事業費補助及び指導・助言を行った。 ・社会教育団体の健全育成・活性化の促進による生涯学習社会の構築推進に繋がった。
③ まなびフェスタやつしろの充実(生涯学習課)	B	コロナ禍の中、感染対策に留意しながら時間を短縮するなどの工夫を行い、幅広い世代に来場いただき、生涯学習に関心を持ってもらう一助とすることができた。 開催日:12月10日(土) 場所:八代市公民館など 内容:講演会、自主講座クラブや社会教育団体等によるステージや成果発表、高校生による体験活動など

#### 4. 今後の課題と方向性

- ①今後も地域との連携を行い、地域住民と参加者の交流や世代間交流を推進することで、青少年の学びや自分たちの住んでいる地域の良さを再発見することにつなげていく。
- ②社会教育団体においては、市地域婦人会等の会員数が減少傾向にある。
- ③「まなびフェスタ」については、今後も本市における様々な学びの場や活動を紹介し、学習成果の発表の機会を設けることにより、市民の生涯学習への理解と意欲を高め、学習活動への参加を促進していく。また、体験活動への協力依頼や自主講座クラブの発表など、他の教育機関や団体等と連携しながら、幅広い世代へ来場してもらえる内容となるよう工夫していく必要がある。
- (①～③生涯学習課)

#### 5. 学識経験者等の意見

外部評価年度：令和7年度

#### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段：予算現額★ 下段：決算額	上段：当初予算 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額
①	生涯学習課 青少年体験活動事業	野外活動や集団生活を通じて自主性や協調性を育み、地域との交流を深めながら豊かな感性と健全な心身の育成を図る。親子で共に野外活動を体験し、驚きや感動を共有しふれあいを深め、市内外各地域を会場として体験プログラム（キッズチャレンジ）を企画し、開催する。	451	603	603	603
			333			
②③	生涯学習課 社会教育事業	社会教育委員会の開催。社会教育指導員を設置し、社会教育活動に対する助言や指導を中心に、生涯学習の支援に関する業務を行う。二十歳の集いの実施。社会教育団体への補助金の支出、支援等を行う。	11,589	11,818	11,818	11,818
			10,827			
③	生涯学習課 生涯学習推進事業	地域住民のために実際生活に即する教育、学術、文化に関する事業を実施する。また、市民のニーズに沿った多様な学習機会、学習情報の提供を行うとともに、その学習活動を通じて住民主体の地域活動や新たな学習の促進を図る。	2,721	2,938	2,938	2,938
			2,414			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

## 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 4 生涯を通じて楽しく学べる充実した環境を提供します

基本方針

(13) 生涯を通じた学習活動の推進

### 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
親の学びトレーナー登録者の割合 (%)	100	100	100				100	
八代市公民館利用者数 (人)	41,706	11,661	21,715				40,000	
受講者満足度 (%)	98.2	94.5	95.7				97.0	
リカレント教育に関する講座等への参加者数 (人)	0	0	261				270	
デジタル社会実現に向けた講座等への参加者数 (人)	94	80	305				270	
生涯学習指導者名簿登録者数 (人)	91	85	89				93	

### 2. 成果指標の進捗状況 ※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

・親の学びについて、人事異動後に配置された職員は研修を受講し、トレーナー登録後、派遣依頼があった際に対応している。  
 ・「ITキャリアアップ講座」などのリカレント教育に関する講座や「はじめてのスマホ講座」「かんたんスマホ講座」といったデジタル社会実現に向けた講座等に力を入れ開催したが、市民のニーズが高かったため令和3年度よりも回数を増やして開催し、参加者数も増加した。市民が気軽に参加できる講座を開催することで、日常生活にデジタル技術を取り入れ、より生活が向上するよう学びの場や機会の充実を図っている。

### 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策 (担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 生涯学習推進体制の充実 (生涯学習課)	B	・市民や地域の学習ニーズに対応した事業を実施できるよう、社会教育主事資格の取得を促進し、生涯学習推進体制の充実を図っている。(令和4年度は1名が社会教育主事講習を受講済み)。 ■生涯学習課職員の社会教育主事資格取得者の割合 令和2年度：3人/11人＝27.3% 令和3年度：3人/10人＝30.0% 令和4年度：3人/10人＝30.0% ※資格取得対象者については、社会教育係・生涯学習推進係の職員数(管理監督職除く)

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
② 時代の変化に応じた多様な生涯学習機会の提供（生涯学習課）	A	<p>・多様化、高度化する学習ニーズに応え、幅広い世代が参加しやすい学びの機会を提供することにより、市民がより豊かで生きがいのある生活を送れるよう「やつしろ市民大学」を新設した。</p> <p>ア やつしろ市民大学（R4新設）・おでかけ公民館講座・公民館講座  ■28講座（参加延べ人数 1,842人） ※R3：22講座（参加延べ人数 498人）</p> <p>イ 公民館講座かわら版  ■1号発行 ※R3：4号発行</p> <p>ウ 公民館講座WEB版  ■3講座（3動画） ※R3：5講座（5動画）</p> <p>・アウトドアスクール及び宿泊体験活動は、児童と保護者を対象とした日帰りでの体験イベントに変更し、夏休み子ども陶芸教室及び親子体験活動は、参加者を制限し実施した。</p> <p>■4事業 ※R3：4事業</p> <p>ア アウトドアスクール（7月27日、豊野少年自然の家等、23人）</p> <p>イ 夏休み子ども陶芸教室（8月4日、赤星公園、19人）</p> <p>ウ さかもと八竜天文台に泊まろう！～天体観測と体験活動～（10月29日～30日、八竜天文台等、15人）</p> <p>エ 親子で楽しもう！里山体験（11月19日、東陽坂より上公民館、3組7人）</p>
③ 生涯学習情報の提供（生涯学習課）	B	<p>・広報やつしろやホームページ、SNSなどを活用し、講座（かわら版・WEB版含む）等の案内や紹介を実施した。</p> <p>・生涯学習指導者登録数について、これまで未登録で講師実績のある人材を洗い出し、登録を依頼することで、登録者数の拡充に繋がった。</p> <p>■新規登録者 8人 ※R3：3人  辞退者 6人 ※R3：1人  登録者 89人（前年度比：2.3%） ※R3：87人</p> <p>■登録者推移  H30：95人→R1：91人→R2：85人→R3：87人→R4：89人</p>

#### 4.今後の課題と方向性

- ①今後も社会教育主事資格の取得を推進し、資格を生かすことで各事業等においての内容の充実につなげる。
- ②アウトドアスクールについては、従事する職員の人員増や熱中症に考慮したプログラム作成が必要。その他の体験イベントについては地域間、世代間交流の推進に努めていく。
- ③生涯学習指導者については、高齢化等のため登録者が減少傾向にある。新しい指導者の開拓等の取組が必要である。
- (①～③生涯学習課)

## 5.学識経験者等の意見

・コロナ禍による外出不安や密集不安は現在もあるため、価値のある活動を企画実践しても、思うように人が集まらない現状にあるが、このような不安はあっても着々と次の事に着手されていることはありがたい。

・学び直しのリカレント教育については、公的・私的に今後の充実が望まれる。

・アウトドア活動については、他県で滑り台で子どもが怪我をするという事故が起こっており、本市においてもアウトドアスクールを開催されているが、いつ、どこで、何が起こるか分からない。アウトドア活動に限らず、重大な事故等が起こらないよう細心の注意を払いながら子どもたちを見守ることは、本当に大変な仕事だと思うのでこれからも頑張っていたきたい。

### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課(か い 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段:予算現額★ 下段:決算額	上段:当初予算 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額
①②③	生涯学習課 生涯学習推進 事業	地域住民のために実際生活に即する教育、学術、文化に関する事業を実施する。また、市民のニーズに沿った多様な学習機会、学習情報の提供を行うとともに、その学習活動を通じて住民主体の地域活動や新たな学習の促進を図る。	2,721	2,938	2,938	2,938
			2,414			
②	生涯学習課 青少年体験活 動事業	野外活動や集団生活を通じて自主性や協調性を育み、地域との交流を深めながら豊かな感性と健全な心身の育成を図る。親子で共に野外活動を体験し、驚きや感動を共有しふれあいを深め、市内外各地域を会場として体験プログラム(キッズチャレンジ)を企画し、開催する。	451	603	603	603
			333			
②	生涯学習課 人権教育事業	講師派遣や講座等を開催し、人権意識の向上を図る。また、部落解放の拠点である西宮・上日置集会所で行う解放学習会等各種学習会を支援し、集会所の維持管理を行う。	4,229	10,272	4,172	4,172
			4,120			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

## 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 4 生涯を通じて楽しく学べる充実した環境を提供します

基本方針

(14) 人を育む図書館づくりの推進

### 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
図書館来館者数(人)	584,170	364,155	368,262				550,000	
図書館貸出冊数(冊)	505,257	344,327	402,046				530,000	
図書館新規登録者数(人)	1,705	804	2,101				1,800	
ブックスタート配付率(%)	0.0	97.0	94.5				100.0	
おはなし会参加者数(人)	4,664	341	2,176				4,800	
電子図書利用者数(人)	985	3,799	40,795				5,500	
図書館講座参加者数(人)	943	293	528				980	

### 2. 成果指標の進捗状況

※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

コロナ禍の中、可能な範囲で最大限の利用者サービス向上に努め、運営を行った。令和4年度は、徐々におはなし会や図書館講座のようなイベントも開催できるようになり、来館者数や新規登録者数、おはなし会参加者数なども増えた。さらに児童・生徒への学校配布のタブレット端末で電子図書館の電子図書を貸し出しできるサービスを開始したことで、電子図書利用者数が格段に増えた。また、遠隔地の学校や福祉施設などにも移動図書館等でサービス提供を行っており、幅広い世代への利用促進に取り組んでいる。

### 3.基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 読書活動の推進（生涯学習課）	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民・ボランティア・民間団体等との協働による図書館運営ができるようになってきたことから、今後も更なる読書活動を実施していく。</li> <li>・子どもの読書活動では「八代市子ども読書活動推進計画【第二次】」（平成31年3月策定）を踏まえ、コロナ禍では学校図書館や就学前施設、図書館ボランティア等との連携を休止していたが、コロナの状況を見ながら徐々に再開した。</li> <li>・赤ちゃんの「こころ」と「ことば」を育み、保護者との心安らぐ時間をつくることを目的に、7カ月児健診時に絵本の読み聞かせや赤ちゃん向けの絵本をプレゼントを行う「ブックスタート」事業は、コロナ禍の中ではあったが、可能な範囲で絵本のお渡しと説明をする方法で実施した。</li> <li>・児童生徒1人1台のタブレット端末を活用し、電子図書を引き続き閲覧できる取組を実施した。</li> </ul>
② 図書館資料の収集、保存、提供（生涯学習課）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館資料等の貸出し傾向、蔵書のバランス等を総合的に勘案し、市民のニーズに沿った資料の収集、保存、提供を図った。特に、在住外国人が増加傾向にあることから、英語やそれ以外の言語で書かれた絵本、児童書、一般書など、外国語資料の充実を図った。</li> <li>・障がいのある方や高齢者など、誰もが利用しやすい環境を整えるため、大活字図書や点字図書、マルチメディア図書、商用データベースの導入等、様々な種類の資料の整備を進めた。また、新しい情報の資料を充実させる蔵書入替えに伴う除籍図書の保育園や学校等への配布など図書の有効活用を実施した。</li> <li>・遠隔地居住者への図書サービス提供の取組として、これまでの移動図書館「ともだち号」の運行に加え、コロナ禍においても24時間いつでもどこでも利用できる、電子図書の拡充に努め利用者の利便性の向上を図った。</li> <li>・郷土資料を収集、保存、発信していくため、デジタルアーカイブシステムの導入を行った。</li> </ul>
③ 調査・研究、生涯学習や教育・文化活動への支援（生涯学習課）	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査・研究資料を整備し、効率的に提供することにより、市民の調査・研究活動を支援した。</li> <li>・図書館講座等の開催、学校からの社会科見学、職場体験等の受入れ等をコロナ禍で中止していた期間もあったが、再開し、市民の生涯学習や教育・文化活動を支援した。</li> </ul>

### 4.今後の課題と方向性

①②③今後も、市民に親しまれることはもとより、市民の生涯学習及び文化活動に寄与できる図書館として図書資料を充実し、質の高い図書館サービスを行う。

また、移動図書館の運行や各種行事、講座、図書展示等を通じて読書活動の普及を図り、朗読や読み聞かせボランティアなど関係団体等との協力を得ながら、外国人や障がい者を含めた乳幼児から高齢者、すべての市民の読書活動の推進を図っていく。

(①～③生涯学習課)

## 5.学識経験者等の意見

外部評価年度：令和6年度

### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段：予算現額★ 下段：決算額	上段：当初予算 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額
①②③	生涯学習課 図書館管理運 営事業	市民の読書活動、学習活動、調査研究活動等を支援し、市民の教育と文化の発展に寄与するため、必要な図書資料等を収集、整理、保存し、貸出又は閲覧に供するとともに、読書活動を推進する事業を行い、学習活動や文化活動の機会を提供する。	141,333	142,278	142,278	142,278
			140,986			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

## 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 4 生涯を通じて楽しく学べる充実した環境を提供します

基本方針

(15) 文化の継承と創造に貢献する博物館づくり

### 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
博物館入館者数(人)	26,667	8,995	23,979				25,000	
特別展アンケートに満足と回答した人の割合(%)	94	96	91				94	
新たに収蔵した資料・作品数(件)	6	9	15				10	
学校利用数(教職員研修、児童生徒見学、出前講座等)(件)	30	28	50				30	
講座・講演会等実施数(回)	21	4	29				30	
収蔵品活用(貸出、閲覧、掲載等)数(件)	28	24	31				30	

### 2. 成果指標の進捗状況

※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

・令和4年度は、「withコロナ」に向けて社会生活が変換していくなか、年4回の特別展を予定通り開催することができ、入館者数はコロナ感染対策以前の数値に近づく結果となった。とくに春季展は多くの観覧者があり、幅広い世代にすぐれた芸術に触れてもらうことができた。また、秋季展は八代城築城400年と関連づけ、八代城周辺に生きた人々への理解を深めてもらうことができた。夏季展・冬季展では館蔵品を有効に活用することができた。観覧者アンケートによる満足度は、春季展90%、夏季展95%、秋季展97%、冬季展85%、平均92%と来館者の殆どが満足した結果となった。

・予定していた調査事業、講座・講演会のほかに、出前講座や調査依頼、特別利用など突発的な依頼にも可能な限り対応し、関連して新たな資料の収蔵につながった。成果指標6項目のうち、4項目は令和元年度の数値を上回り、本市の魅力ある歴史と文化を発信することができた。

### 3.基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 特別展覧会及び常設展示の充実（博物館）	B	<p>1. 春季特別展覧会「こわいもの大集合！～妖怪・幽霊・鬼・地獄～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ R4. 4.22～6.5、開館39日間</li> <li>■ 観覧者数6,558人（有料入館者3,124人、無料入館者1,455人、中学生以下1,979人）</li> <li>■ 満足度90%（アンケート回答者574のうち「よかった」と答えた割合、以下同様）</li> </ul> <p>2. 夏季特別展覧会「ようこそ！美術の森へ～いろんな絵、見てみよう！～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ R4.7.15～8.28、39日間</li> <li>■ 満足95%（回答者113）</li> <li>■ 観覧者数2,001人（有料入館者1,267人 無料入館者425人 中学生以下309人）</li> </ul> <p>3. 秋季特別展覧会・八代の歴史と文化31「町人と百姓の江戸時代 ～私たちの歴史がここにある～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ R4.10.21～11.27 33日間</li> <li>■ 満足度97%（回答者101）、図録販売数91冊</li> <li>■ 観覧者数2,205人（有料入館者669人 無料入館者835人 中学生以下701人）</li> </ul> <p>4. 冬季秋季特別展覧会「知られざる肥後の絵師たち2023」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ R5.2.3～3.12 33日間</li> <li>■ 満足度85%（回答者42）</li> <li>■ 観覧者数1,772人（有料入館者1,002人 無料入館者562人 中学生以下208人）</li> </ul> <p>※特別展観覧者数合計 12,536人（有料入館者6,062人、無料入館者3,277人 中学生以下3,197人）</p> <p>5. 常設展示事業</p> <p>第一常設展示室では、7月豪雨で被災し修復された大門観音堂の鯛口（県指定）をはじめ、八代焼、写真家・麦島勝の世界、古文書を読む、信仰のかたち、金工、考古、民俗、和紙の各コーナーでのべ30回の展示を行い、最新の調査成果の公開に努めた。第二常設展示室では、松井文庫所蔵品による展示3期と新収蔵品展1回を行った。</p>
② 調査研究活動の充実（博物館）	B	<p>1. 松井文庫所蔵古文書調査事業（総数約1万通、平成6年度から継続事業、29年目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 395通の調書作成・補修・写真撮影・目録作成、『調査報告書22』に掲載する107通の解読を終了。</li> <li>■ 『調査報告書』1～21 販売数総計25冊（R2年度実績13冊、R3年度253冊）</li> <li>■ 令和4年度末現在、8,169通の調査・写真撮影・目録作成を終了、3,726通の解読を終了。</li> </ul> <p>2. 鹿子木家文書調査事業</p> <p>令和2年度に寄託を受けた文政・千丁地域の干拓関係の古文書群（3,204点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2,566点の整理・クリーニングを終了、調書作成を進めた。</li> </ul> <p>3. 堅山南風関係資料（自筆書簡等）の調査（令和5年度春季展準備に伴い、新たに確認）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 春光寺73通、松井家4通などの調査・写真撮影・解読を行った。</li> </ul>
③ 博物館収蔵品の充実と保存・継承（博物館）	B	<p>1. 令和4年度寄贈資料（通算1,200件 20,710点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 考古、歴史、民俗、美術資料 14件50点（令和2年度：8件20点、令和3年度：6件12点）</li> </ul> <p>2. 令和4年度寄託資料（総件数 103件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 民俗資料 1件（令和2年度：2件、令和3年度：6件）</li> </ul> <p>3. 購入資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 美術・歴史資料 492件（開館以来通算）</li> </ul> <p>当館の活動実績が評価され、寄贈の申し出を受けるケースが増えている。御用絵師近野行廣筆「山水図屏風」（嘉永4年・1851）、衛藤行寿筆「鳩生写図巻」（文政9年・1826）などがそうである。また、「西山宗因発句入自筆書状」（寛文13年・1673）は、宗因研究上の重要資料で、博物館友の会より寄贈を受け、収蔵することができた。日頃の調査研究や情報収集によって、収蔵品の充実に努めている。来るべき改修工事に向けて、館蔵品の整理や再調査を進めている。</p>

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
④ 博物館収蔵品を活用した教育活動の充実（博物館）	A	<p>1. 講座・講演会関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 展覧会に伴う特別講演会・講座等 7回開催(参加者延べ243人)</li> <li>■ 夏季特別展に伴う体験講座（クロッキー・油絵）・鑑賞講座 各1回開催(参加者17名)</li> <li>■ 古文書講座 上級 11回開催(延べ118人)</li> <li>■ 外部への講師派遣・出前講座 28件（延べ1,720人）</li> </ul> <p>2. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 解説シートの設置(各特別展示・企画展示・常設展示)</li> <li>■ 児童・生徒への解説活動（40件延べ1,384人、引率教職員151人）</li> <li>■ 学芸員実習生の受け入れ（6日間・2人）</li> <li>■ 取材対応、新聞・雑誌への寄稿</li> <li>■ 館蔵資料の館外貸出（7件56点）、特別利用（閲覧・貸出等24件340点）</li> <li>■ 博物館ホームページの充実・公式Youtubeによる動画配信</li> </ul>

#### 4. 今後の課題と方向性

<p>①②④本事業は、豊かな生涯学習活動の推進と次世代育成及び郷土に対する誇りの醸成や本市の文化向上のために重要な役割をもつ事業であることから、引き続き充実した内容の展覧会や講座・講演会活動を開催していきたい。</p> <p>③④改修工事による長期休館に向けて、館蔵品の整理と再調査を進め、再開館後の展示活動の充実につなげるとともに、休館中は、他の市施設や学校への出前講座等を幅広く行い、再開館後の入館者増につなげたい。</p> <p>④当館ホームページやSNS、新たな情報機器を利用した動画配信など、情報発信のデジタル化を進めたい。</p> <p>(①～④博物館)</p>
---

#### 5. 学識経験者等の意見

<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block;">外部評価年度：令和7年度</div>
---

#### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課がい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段：予算現額★ 下段：決算額	上段：当初予算 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額
①	博物館 博物館特別展 覧会事業	<p>八代の歴史と文化の特色を探求し、魅力を発信する秋季展、全国各地の名品を八代にしながら鑑賞できる春季展、夏休み期間中の子どもたちも地域の歴史や文化を楽しく学べる夏季展、城下町文化や八代の工芸品を紹介する冬季展などの特別展を年4回開催する。</p> <p>改修工事中は、館蔵品の点検・再調査、梱包・移転作業、再開館後の特別展の準備などを行う。</p> <p>【第一常設展示】八代の考古・歴史・民俗・美術工芸分野について、適宜展示替えを行ない、紹介する。</p> <p>【第二常設展示】松井文庫所蔵品のなかから、絵画・能面・能装束・武器武具・漆工芸品等、全国に誇る武家コレクションを年5回程度の展示替えを行い紹介する。</p> <p>改修工事中は、松井文庫所蔵品の点検・再調査、他館への預入と共催展などを行う。</p>	10,093	10,503	5,000	5,000
			9,649			
①	博物館 博物館常設展 示事業	<p>【第一常設展示】八代の考古・歴史・民俗・美術工芸分野について、適宜展示替えを行ない、紹介する。</p> <p>【第二常設展示】松井文庫所蔵品のなかから、絵画・能面・能装束・武器武具・漆工芸品等、全国に誇る武家コレクションを年5回程度の展示替えを行い紹介する。</p> <p>改修工事中は、松井文庫所蔵品の点検・再調査、他館への預入と共催展などを行う。</p>	2,884	2,906	2,600	6,100
			2,772			

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段：予算現額★ 下段：決算額	上段：当初予算 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額
②	博物館 博物館展示資料調査事業	わが国の歴史資料として全国的にも注目されている松井文庫所蔵古文書群（旧八代城主松井家に伝来した近世の古文書群約1万点）の整理、調査台帳の作成、調査報告書の刊行を中心に行う。改修工事中は、可能な限り継続して調査事業を行う予定。	343	1,226	400	1,400
			296			
④	博物館 教育普及活動事業	博物館学芸員や館外講師による講座・講演会の開催、市の事業である出前講座や学校への出張講義、諸団体が開催するセミナー等への講師派遣、常設展示の理解を助けるためのオリジナル展示解説シートの作成などを行う。改修工事中は、他施設での連続講座、出前講座などを幅広く行う予定。	79	200	800	179
			79			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

# 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 4 生涯を通じて楽しく学べる充実した環境を提供します

基本方針

## (16) 社会教育施設の整備

### 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
ICチップ導入冊数(図書館)(冊)	0	0	105,000				50,000	
博物館施設の機能維持に必要な改修工事の実施率(%)	0	0	0				100	

### 2. 成果指標の進捗状況

※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

<p>(生涯学習課)</p> <p>図書館本館の開架図書にICチップを貼付し、図書業務の効率化によってレファレンス機能の充実とより高度な図書サービスの提供が可能となった。</p> <p>(博物館)</p> <p>令和4年度は設備改修工事に伴う基本計画の作成や「八代市立博物館未来の森ミュージアム保全管理計画(個別計画)」を策定した。令和5年度は実施設計作成、令和6年度からの改修を計画しているため、改修工事の実施には至っていない。</p>
---

### 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策(担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 公民館施設等の整備・充実(生涯学習課)	B	<p>社会教育、生涯学習の拠点としての機能を併せ持つ施設について、必要な改修や不具合箇所等の整備を行い、利用者の安全及び利便性の確保に努めた。</p> <p>公民館施設整備事業 ワイヤレス設置工事 1,298千円 / 吊天井改修実施設計業務委託 1,903千円</p> <p>社会教育センター管理事業 久多良木社会教育センタープール解体工事 21,353千円</p>
② 図書館施設の整備・充実(生涯学習課)	A	<p>・図書館本館、せんちょう分館、かがみ分館における安全で快適に利用できる環境を確保するため、老朽化した施設・設備の改修など軽微な修繕を行った。</p> <p>図書館施設整備事業 エアハンドリングユニット交換工事 21,417千円</p> <p>・図書の貸出手続きや、貸出に伴う事務の簡素化により、レファレンスなどの図書館サービスの充実に向け、ICタグ管理システムの導入作業を進めた。</p>

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
③ 博物館施設の整備・充実（博物館）	B	<p>③博物館設備機器改修など計画的な工事を行うために基本設計業務を委託。受託者や営繕課、博物館で月1～2回のペースで綿密な協議を行った。また当館が「公開承認施設」及び「くまもとアートポリス対象施設」であることから、文化庁や伊東豊雄建築設計事務所と改修工事に向けて協議した。概算工事費の算出や次年度の実設計業務委託に向けた準備も概ね予定通りに実施することができた。</p> <p>また、当館の役割や計画的な維持管理を図るために、八代市立博物館未来の森ミュージアム保全管理計画（個別施設計画）を令和5年3月に策定し、計画的な改修ができる環境を整備した。</p>

#### 4. 今後の課題と方向性

<p>①老朽化した電気設備や機械設備の不具合に対処し、機能を維持しているが、複数の施設（建築）が30年超を経過していることから、利用者の安全と衛生を保つことが困難となっている。そのため、将来を見据えた社会教育、生涯学習の在り方や方針に沿って、包括的な機能の集約や、予防保全を目的とした長寿命化などの計画を策定し、実行する必要がある。</p> <p>また、坂本町の施設は復興に伴う“まちづくり”と相互に影響しあう為、今後も、並行した整備方針を取り入れていく必要がある。</p> <p>築後30年以上を経過する施設の整備・改良について、計画的かつ有効な施設整備の充実・改善が必要である。（生涯学習課）</p> <p>②図書館本館については、築後38年を経過する為、施設の整備・改良について、計画的かつ有効な施設整備の充実・改善が必要である。（生涯学習課）</p> <p>③博物館の工事による休館は約2年間（令和6年度～令和7年度）を見込んでおり、令和5年度には実施設計を作成する。改修工事中は、館内に保管している約27,000点の博物館資料は、基本は館内の空気環境下で移動・保管しながらの工事となる。ただし、一部の資料は館外での保管を検討している。その際は担当学芸員などが常駐できるよう執務機能を移転するなど、博物館資料の移動に関する具体的な計画が必要となる。また、管理運営業務に関する委託事業は、工事期間中並びに再開館時について内容を見直す必要がある。</p> <p>改修工事については、空調などの機器改修や電気設備改修、エレベーター取替等の他に、内装や屋根防水等の建築工事費や資料移動費等に係る経費を踏まえた予算の確保やスケジュール調整が課題と考えている。</p> <p>また令和6年度から特別展示室の貸し出しができなくなるため、令和5年度夏頃には市民等への周知を行い、市民等利用者への理解を図りながら、関係者等への説明や対応についても検討する。（博物館）</p>
--

#### 5. 学識経験者等の意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館のレファレンスサービスやICタグ管理システムについては、図書館利用者として感動した。</li> <li>・お宝満載の博物館が計画的に保存管理を進められていることをありがたく思う。</li> <li>・改修工事後に市民が、新しくなった博物館にまた行ってみたいと思えるような休館中の取組を期待する。</li> </ul>
---

<施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段:予算現額★ 下段:決算額	上段:当初予算 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額
①	生涯学習課 公民館管理運 営事業	八代市公民館の良好な維持管理を行うことにより、 公民館の機能である「つどろ」「まなぶ」「結ぶ」 「創る」「探す」などの重要な機能を維持し、適正 な運用を図る。	34,391	34,571	34,571	34,571
			31,947			
①	生涯学習課 自治公民館再 建支援事業 (豪雨災害)	令和2年7月豪雨により被災した坂本地域の自治公民 館の再建に対して、事業費の3/4の補助を行う。	0	0	0	0
			0			
①	生涯学習課 公民館施設整 備事業	八代市公民館の不具合箇所等の整備と、利用者の安全 及び利便性向上のため改修を行う。	3,378	65,000	3,378	3,378
			3,201			
①	生涯学習課 社会教育施設 管理運営事業	①社会教育に関する事業・研修等の企画・運営②学 習活動に対する地域住民の主体的な参画の支援③市 報やホームページ、SNS等を活用した情報提供④施 設の適正な維持管理を行う。	65,119	40,776	40,776	40,776
			59,500			
②	生涯学習課 図書館管理運 営事業(再掲)	市民の読書活動、学習活動、調査研究活動等を支援 し、市民の教育と文化の発展に寄与するため、必要 な図書資料等を収集、整理、保存し、貸出又は閲覧 に供するとともに、読書活動を推進する事業を行 い、学習活動や文化活動の機会を提供する。	141,333	142,278	142,278	142,278
			140,986			
②	生涯学習課 新型コロナウイ ルス感染症対策事業 (図書館管理運営)	不特定多数の地域住民が利用する社会教育施設の 感染症対策として、安全・安心に施設を利用できる 環境を整備する。図書館においては、リモートによ る読み聞かせ等の図書館講座の開催やレファレンス の実施、また、今後のICタグ導入に向けた図書館整 備などデジタル化へ向けた環境整備を行う。	32,332	0	0	0
			31,369			
③	博物館 博物館施設整 備事業	開館30年を超える当施設について、八代市総合計画 及び八代市公共施設等総合管理計画に基づき、中長 期的な改修計画に沿って、大型の施設・設備の改修 事業を行い、それにより、安全で快適な社会教育施 設を市民に提供する。	5,356	28,388	467,203	695,554
			4,635			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

## 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 5 郷土の歴史文化遺産に親しめる環境を整えます

基本方針

### (17) 歴史文化遺産の保存継承と活用

#### 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
指定及び国登録文化財件数 (件)	240	240	245				242	
出前講座・史跡めぐり参加者数 (人)	179	26	939				200	

#### 2. 成果指標の進捗状況

※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

- 指定及び国登録文化財に件数については、微増であるが、今後も引き続き各種指定文化財が適切に保存管理され活用が図られることにより、後世に確実に継承されていくことが期待される。
- 出前講座・史跡めぐり参加者数については、コロナ禍からの制限が緩和され、令和4年が築城400年を迎えるにあたり連続講座を計6回開催したことにより大幅に増えており、市民の歴史文化に対する関心がうかがえる。

#### 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策 (担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 文化財の調査と保護 (文化振興課)	A	<p>文化財の調査、保存、管理等に必要な措置を講じた。</p> <p>(発掘調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画道路西片西宮線の整備に伴い、令和4年度は西片乙津南遺跡の発掘調査並びに調査報告書の刊行を行った。</li> <li>・球磨川河川整備事業に伴い、令和4年度は球磨川はねのうち「大はね」及び「丸はね」の発掘調査を実施した。</li> <li>・新八代駅周辺道路整備事業に伴い、令和4年度は駅舎南側の調査区を対象に発掘調査を行い、調査報告書を刊行した。</li> </ul> <p>(指定文化財)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定文化財の保存管理業務の委託、指定文化財の所有者や保存団体に対する修理費・維持管理費補助を行った。</li> </ul> <p>いずれも保存管理等が将来にわたって、適切に図られるよう八代に残る重要な文化財の保護につながった。</p>

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
② 歴史文化遺産に親しめる環境の整備（文化振興課）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の遺跡や文化財についての講座や見学会を実施し、市民に対し、八代の歴史文化を学ぶ機会を提供するとともに、文化財保護への理解を深めてもらうことができた。特に令和4年度は、築城400年を契機とした講座も計6回実施し、第1回から3回は参加者が定員に達するなど、市民の関心も高かった。</li> <li>・築城400年を記念して、これまでの調査で明らかとなった八代城のヒミツを、出土遺物や写真パネル、大書院の懸魚等の展示を通して紹介を行い、延べ500名を超える来場者があった。</li> <li>・お祭りでんでん館では、夏休みを利用して1日体験DAYとして、市内の子どもたちを対象に直接民俗文化財に触れる機会の創出を行った。</li> <li>・日本遺産の取組として、構成文化財等をめぐるツアーを実施し、参加者にとって、概ね満足のいく内容であった。</li> </ul>
③ 歴史文化遺産を地域で継承する仕組みづくり（文化振興課）	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本遺産に関連する取組として、東陽中学校の生徒による中学生ボランティアガイドが発足し、地元の構成文化財等を中学生が案内する体制が構築された。発足時の生徒の一部は卒業したが、現在も下級生へ引き継がれ、取り組んでいる。</li> </ul>

#### 4. 今後の課題と方向性

- ①指定文化財関連においては、所有者の高齢化や補助金の所有者負担が懸念される。
- ③民俗文化財等の後継者不足も課題となっており、人材の確保が必要である。
- ③日本遺産では東陽中学校の生徒による中学生ボランティアガイドが他の地域のモデルとなっていることから、他の地域でも歴史文化遺産を活かしたガイドを育成していく必要がある。
- (①～③文化振興課)

#### 5. 学識経験者等の意見

外部評価年度：令和6年度

#### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段：予算現額★ 下段：決算額	上段：当初予算 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額
①	文化振興課 指定文化財保存管理事業	各種指定文化財の保存管理が将来にわたって適切に図られるよう、文化財の保存、管理、修理のために必要な措置を講じる。また、国・県への上位指定、新指定のための文化財調査を進め、八代に残る重要な文化財の保護を図る。	11,376	6,195	7,000	7,000
			5,016			
①	文化振興課 伝統文化財保存事業	国指定重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産である「八代妙見祭の神幸行事」を確実に保存継承するための諸事業及び地域の伝統行事のさらなる活性化を図るための取り組みを推進する。	8,764	8,544	8,600	8,600
			8,764			

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段：予算現額★ 下段：決算額	上段：当初予算 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額
①	文化振興課 埋蔵文化財管 理活用事業	出土した文化財や発掘調査の記録、写真類を、地域の歴史や文化の形勢を考える貴重な資料として、また今後のまちづくりに活用できる貴重な資源・財産として、将来の展示や体験学習等の活用に備え、適切に保存と管理を図る。	2,282	2,336	2,500	2,500
			2,242			
①	文化振興課 文化財保護啓 発事業	市内に残る有形文化財や史跡等の記念物、民俗文化財、伝統芸能等の周知を図り、文化財保護への関心を高めてもらう事業を実施する。また、八代市日本遺産活用協議会に負担金を拠出し、国庫補助事業等を活用した日本遺産活用事業と展開する。	14,630	7,112	7,500	7,500
			13,819			
①	文化振興課 伝統文化財復 元修復事業	国指定重要無形民俗文化財「八代妙見祭の神幸行事」及び県指定重要民俗文化財「妙見宮祭礼神幸行列関係資料」が将来にわたり、適切に保存継承されるよう、復元修復について必要な措置を講じる。	5,289	8,937	6,000	6,000
			4,623			
①	文化振興課 市内城跡保存 管理事業	国指定史跡「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」について、八代を代表する史跡及び名勝として保存・整備、活用を図る。平成29年度に「八代城跡群保存活用計画」を策定するとともに、八代城跡群の適切な保存・整理を図るため、令和3年度から「八代城跡群整備基本計画」の策定を進めている。	5,162	5,933	5,000	10,000
			4,572			
②	文化振興課 ユネスコ無形 文化遺産活用 事業	ユネスコ無形文化遺産に登録された九州の他団体と連携した事業展開を行うとともに、妙見祭の魅力を発信し、ユネスコ効果を生かした交流人口の増加を図る。	895	95	100	100
			860			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額

## 第3期教育振興基本計画の進行管理及び点検・評価表 (施策の基本方針ごとの意見・評価)

基本目標 6 災害からの復興を進め教訓を継承します

基本方針

(18) 災害からの復興推進・教訓の継承

### 1. 成果指標の推移

指標項目	(参考) R1年度	現状値 R2年度	実績値				目標値 R7年度	最終評価
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
学校の電子データ(サーバー)の浸水対策実施率(%)	0	0	0				100	
坂本町で開催した生涯学習講座等への参加者数(人)	122	0	25				140	
マイタイムライン(一人一人の避難行動をまとめた防災計画)の作成率(%)	0	0	100				100	

### 2. 成果指標の進捗状況

※それぞれの指標について、担当課かいの評価内容を記入。

<p>(教育政策課)</p> <p>学校のサーバーは職員室に設置してあるため、職員室が1Fにある学校については、浸水対策を実施する必要がある。</p> <p>(生涯学習課)</p> <p>坂本コミュニティセンターで「はじめてのスマホ講座」を開催し、アプリ(地図、メモ帳、カレンダー他)等の使い方などを学び、生活の中で役立つ知識を習得してもらうことができた。</p> <p>(学校教育課)</p> <p>マイタイムラインの作成は、令和4年度末の時点で100%を達成した。</p>
--

### 3. 基本方針を構成する主な施策の取組状況及び評価

主な施策(担当課)	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
① 地震に対する取組 (再掲)(教育施設課)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度より実施している外壁の点検については令和4年度に12件を、業務委託により調査を実施し年度内に完了した。また、令和元年に点検調査を実施した小学校1校について、外壁劣化が進んでいることが明らかとなったことから、R3.3月補正にて工事費の予算を確保し、令和4年度に外壁改修工事を行い、児童・先生の安全確保を行った。</li> <li>非構造部材である「吊下げ式スクリーンの撤去」を小学校2校で実施した。</li> <li>避難所として必要なライフラインの確保のため、R4.12月補正にて工事費の予算を確保し、令和4年度から令和5年度に掛けて「耐震性受水槽の新設工事」を中学校1校で実施している。</li> <li>屋外トイレを小学校1校で改築し、大規模災害時における車中泊避難者等への防災機能の強化を図った。</li> </ul>

主な施策（担当課）	評価	令和4年度における取組状況及び評価の理由
② 豪雨災害による被災地への支援と取組 （教育政策課・学校教育課・生涯学習課）	A	（教育政策課） 令和2年7月豪雨災害で被害を受け、坂本校区外に居住する八竜小、坂本中の児童生徒をスクールバスで送迎し通学手段の確保を図った。 <スクールバス利用者> R4：61人、R3：67人、R2：63人
	B	（学校教育課） ・防災教室の実施時期及びマイタイムラインの作成、見直しに対し、学校と適宜連絡を取りながら必要なアドバイス等を行った。
	B	（生涯学習課） ・毎月1回、移動図書館を応急仮設住宅（2か所）に巡回し、被災者の方々に図書の貸出を行った。 ・八代市ホームページ防災サイトの情報をファイリングし、市民へ情報の提供を行った。 ・被災した自治公民館の再建支援を行った。 自治公民館再建支援（豪雨） 西鎌瀬公民館災害復旧工事 2,475千円 公民館に替わる「みんなの家」整備事業（日本財団基金） 中津道地区（中津道、三坂） 令和5年2月着工 令和5年7月落成予定 藤本地区（藤本、大門） 令和5年4月着工予定 令和5年9月落成予定
③ その他災害に対する取組 （学校教育課・教育政策課・教育施設課・博物館・文化振興課） ※再掲含む	B	（学校教育課） ・八竜小学校及び坂本中学校においては防災教室を実施し、その中でマイタイムラインの作成及び見直しも行われた。また全ての本市立学校においてマイタイムラインの作成が行われた。
	C	（教育政策課） 学校の電子データ（サーバー）の浸水対策について、設置場所が1Fの学校について、未対策としている。1Fに職員室がある学校数：24校
	B	（教育施設課） 【屋外トイレや屋外照明の整備】 ・「体育館トイレの和便器の洋便器化」を2校（小中各1校）で、「屋外トイレの改築工事」を小学校1校で実施した。 ・小学校3校において、民間事業者からの寄付による屋外ソーラー照明灯の整備を行った。 【体育館等へのエアコンの整備】 ・危機管理課が進める体育館へのエアコン設置について、R5年度工事予定の6校（小2校、中4校）分の設計委託を関係課と連携し、実施した。
	A	（博物館） ・第一常設展示室における災害関連展示 「住友財団文化財維持・修復事業助成 災害から甦った大門観音堂の鰐口」（R4.4.5～6.19） ・防災講座への講師派遣（市生涯学習課主催市民大学防災講座、受講者14名） 「文化財に見る八代の災害の歴史」（R4.7.12） ・学校への出前講座にて災害の歴史を紹介（八代中学校1年生 85名） 「八代の歴史と文化」（R4.5.25） ・教職員研修にて災害の歴史を紹介（市学校教育課主催新規採用職員研修、39名） 「八代の歴史と文化」（R4.8.16）
	A	（文化振興課） ・令和2年7月豪雨災害により麦島城跡出土建築部材の一部が被災したため、令和3年度より再処理を実施している。 ・令和2年7月豪雨で被災した藤本天満宮の再建を地域コミュニティ施設等再建支援事業により支援した。 令和4年度は、いずれも順調に進んだ。

#### 4. 今後の課題と方向性

- ①非構造部材の耐震改修は、その部位が多岐に渡るため優先順位を付け、計画的に実施していく必要があるが、財源に国の交付金を活用していることから、その事業採択により進捗が大きく左右される。また、整備に係る予算の確保が難しくなっていることから、整備手法の検討やコスト削減を図りつつ、学校施設の耐震対策など安全安心な施設整備に取り組んでいく。(教育施設課)
- ②JRの復旧の見通しが立たないことや国道219号の復旧作業に伴い大型の工事車両が行き来していることから、児童生徒の通学時の安全を確保するため、令和5年度から本来スクールバス送迎対象でない児童生徒もすべてスクールバスでの送迎を行っている。今後の対応については、国道219号の復旧状況等を踏まえ見直しを検討する必要がある。(教育政策課)
- ②③取組が進んでいる学校の事例を積極的に紹介していく。また、八代河川国道事務所及び県南広域本部等の関係機関とも連携し、各学校が取り組みやすいプログラム等を作成し、提供することで、安全教育・防災教育の推進を図っていく。(学校教育課)
- ②坂本町の施設等を使用するなどし、講座や体験活動を今後も継続していく。(生涯学習課)
- ②被災者の方々の希望に沿った移動図書館の巡回や、防災情報のファイリングなどの市民への情報提供・節目ごとの展示など、災害の教訓の継承に努めていく。(生涯学習課)
- ③学校の電子データ(サーバー)の浸水対策については、職員室が2F以上にある学校を含め、全ての学校について、ネットワークサーバーやクラウド環境への移行を検討していく。(教育政策課)
- ③避難所機能の強化、充実についても、補助金等の財源や予算の確保が難しくなっているため、様々な部署、関係機関と連携しながら、施設整備を図っていく。(教育施設課)
- ③災害に関連する資料展示や講座活動などを行っていく。(博物館)
- ③地域コミュニティ施設等再建支援事業においては、所有者の自己負担が懸念される。(文化振興課)

#### 5. 学識経験者等の意見

外部評価年度：令和7年度

#### <施策に関連する主な事務事業>

単位(千円)

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段：予算現額★ 下段：決算額	上段：当初予算 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額	上段：予算見込 下段：決算額
①③	教育施設課 学校等非構造 部材耐震化事 業(小中幼合 算)	地震時における児童生徒等の安全及び大規模災害時の避難所機能を確保するため、小・中・支援学校及び幼稚園施設の非構造部材(吊り天井、照明器具、ガラス等)の落下防止対策等の工事を行うもの。	109,644	38,184	207,624	207,624
			107,623			
②	教育政策課 学校通学関係 事業(再掲)	遠距離等により通学困難な児童生徒の支援のため、スクールバス運行及び通学に要する経費の補助を行い、安全安心な通学環境を確保する。また、新たに統廃合する学校に対し、円滑な学校運営のための環境整備を行う。	92,911	99,353	90,000	90,000
			85,478			

対応する 施策番号	(担当課かい 名) 事務事業名	事務事業の概要	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			上段:予算現額★ 下段:決算額	上段:当初予算 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額	上段:予算見込 下段:決算額
②	生涯学習課 自治公民館再 建支援事業(豪 雨災害)(再掲)	令和2年7月豪雨により被災した坂本地域の自治公民館の再建に対して、事業費の3/4の補助を行う。	2,475	0	0	0
			2,475			
②	生涯学習課 青少年体験活 動事業(再掲)	野外活動や集団生活を通じて自主性や協調性を育み、地域との交流を深めながら豊かな感性と健全な心身の育成を図る。親子で共に野外活動を体験し、驚きや感動を共有しふれあいを深め、市内外各地域を会場として体験プログラム(キッズチャレンジ)を企画し、開催する。	77	77	77	77
			77			
②	生涯学習課 生涯学習推進 事業	地域住民のために実際生活に即する教育、学術、文化に関する事業を実施する。また、市民のニーズに沿った多様な学習機会、学習情報の提供を行うとともに、その学習活動を通じて住民主体の地域活動や新たな学習の促進を図る。	38	38	38	38
			37			
③	教育政策課 ICT教育推 進事業(再掲)	児童・生徒にパソコン等の情報機器に接する機会を提供し、基本操作を習得することができるようパソコン室を整備する。また、情報機器を活用し、わかりやすく質の高い授業を実現し、事務を効率化することができるよう校務用パソコンを整備する。	192,436	174,190	175,000	175,000
			184,047			
③	博物館 教育普及活動 事業(再掲)	博物館学芸員や館外講師による講座・講演会の開催、市の事業である出前講座や学校への出張講義、諸団体が開催するセミナー等への講師派遣、常設展示の理解を助けるためのオリジナル展示解説シートの作成などを行う。 改修工事中は、他施設での連続講座、出前講座などを幅広く行う予定。	79	79	179	179
			79			

★予算現額…当初予算額に補正予算額や繰越額等を加減した最終の予算額